

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	ARG	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	アルゴリズム				
教員氏名	大津 崇				
授業の方法	・テキストを使って図解した代表的なアルゴリズムを知る ・そのアルゴリズムを流れ図などで表現して、理解を深める ・流れ図などを作成することを毎授業の課題として提出させる				
授業概要	・アルゴリズムを表現する方法(フローチャート、HCPチャート、DFDなど)について学ぶ ・基本的なデータ構造(配列、リスト)について学ぶ ・データ構造とアルゴリズムの密着した関係について理解を深める ・問題を解くためのデータ構造とアルゴリズムのあり方、考え方を理解する				
到達目標	・定石のアルゴリズムを習得すること ・問題を解くための「観察、分析」によって有用なデータ構造を決定できること ・具体的に解く方式を創造できること ・オリジナルのアルゴリズムを伝達できるように表現すること				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	チュートリアル	アルゴリズムとは 効率の良いアルゴリズム		
	2	データ構造(配列) I	探索、並び替え		
	3	アルゴリズムの表記	流れ図(フローチャート、HCP)、DFD		
	4	データ構造(配列) II	高度な探索、スタック		
	5	データ構造(リスト) I	単方向、双方向		
	6	データ構造(リスト) II	二分木、再帰		
	7	データ構造(構造体)	クラス、属性		
	8	グラフ I	PERT、クリティカルパス		
	9	グラフ II	状態遷移		
	10	数値解析(線形)	シンプレックス法		
	11	数値解析(非線形)	山登り法		
	12	暗号	インターネットとセキュリティ対策		
	13	暗号	ハッシュ、暗号鍵		
	14	圧縮	符号化と圧縮		
	15	圧縮	様々な圧縮技術と応用		
16	まとめ				
テキスト	アルゴリズム図鑑 著者:石田保輝、宮崎修一 発行者:翔泳社				
参考書	参考資料は都度提示する。 情報ソースは、講師私資料及びネット情報				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.毎回課題と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	CMP	必須/選択	必修	単位	4単位
科目	コンパイラの理論と実現				
教員氏名	大津 崇				
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ 本授業では、コンピュータの基本的な動作を理解した上でコンパイラの役割と処理を学ぶ。</p> <p>②授業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの機能構成とCPUの役割を学習する ・高水準言語の代表として、java、c、pythonを導入する ・機械語のニーモニックと意味を理解する ・高水準言語の仕様を記述する有向グラフやBNF記法を学ぶ ・字句解析、構文解析、オブジェクト生成の順にコンパイラの機能をチャートに表すことで実装の方法を学ぶ <p>③事前学習 都度配布する資料を読んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 他の専門科目で学んでいることと連携して学習を進める。それぞれの関係性の理解に努める。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じたプログラム言語の意味を理解する ・機械語の基本的コマンドセットを理解する ・コンパイラの処理を実装するための基礎知識として順序機械を学習する ・プログラムの処理方式を記述する方法を習得する 				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	チュートリアル	コンピュータの定義と動き プログラミング言語の種類 コンパイラとインタプリタ ノイマン型コンピュータ		
	2	CPUの役割と2進数	高水準言語 機械語の表記方法		
	3	機械語命令－論理演算	論理和、論理積、排他的論理和		
	4	機械語命令－加算減算	加算、補数		
	5	機械語命令－乗算除算	論理シフト、算術シフト		
	6	16進数とコード	数値、文字、色		
	7	浮動小数点	オーバーフロー、アンダーフロー、IEEE		
	8	機械語命令－レジスタの役割	プログラムカウンタ、フラグレジスタ、汎用レジスタ、アキュムレータ		
	9	機械語命令－関数呼出	配列、スタック、ジャンプ命令		
	10	順序機械(1)	オートマトン		
	11	順序機械(2)	正規表現		
	12	字句解析	BNF表記、有向グラフ		
	13	構文解析(1)	代入文、算術式		
	14	構文解析(2)	分岐、繰返し		
15	まとめ				
テキスト	プログラムはなぜ動くのか 著者: 矢沢久雄 出版社: 日経BP				
参考書	特になし				
評価基準	1. 期末試験による総合評価(60%) 2. 毎回課題と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	OBJ	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	オブジェクト指向理論				
教員氏名	藤井 文一郎				
授業の方法	<p>講義・演習</p> <p>1. 予習時や講義時はノートを取るなど、手を動かして学習すること。</p> <p>2. 何事もまずは自ら考える習慣をつけるようにすること。</p> <p>3. 理解の難しい部分は積極的に質問するなどして解決するように努めること。</p>				
授業概要	<p>Java言語の基礎を習得するとともに、オブジェクト指向プログラミングの基本的概念と考え方を学ぶ。この授業は、Java言語の初歩から初めて一通りのプログラム作りができるまでを学ぶ流れと、クラス、メソッド、継承、ポリモーフィズムなどオブジェクト指向機能から初めて実際のプログラミングを学ぶ流れの2つから構成される。</p>				
到達目標	<p>1 javaで基本的なプログラムを作成することができる。</p> <p>2 オブジェクト指向とは何かについて、その概念を述べるができる。</p> <p>3 クラス、メソッド、継承などのオブジェクト指向特有の言葉について説明ができる。</p> <p>4 クラス、メソッド、継承などオブジェクト指向特有の内容を実際に使いこなすことができる。</p>				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	導入(オブジェクト指向とは、授業のすすめかた)	受講計画をたてる		
	2	オブジェクト指向の基礎 I (1)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	3	オブジェクト指向の基礎 I (2)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	4	オブジェクト指向の基礎 I (3)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	5	オブジェクト指向の基礎 I (4)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	6	オブジェクト指向の基礎 I (5)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	7	オブジェクト指向の基礎 I (6)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	8	オブジェクト指向の基礎 I (7)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	9	オブジェクト指向の基礎 I (8)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	10	オブジェクト指向の基礎 II (1) 応用プログラムの作成	応用プログラムV1の作成		
	11	オブジェクト指向の基礎 II (2) 応用プログラムの作成	応用プログラムV2の作成		
	12	オブジェクト指向の基礎 II (3) 応用プログラムの作成	応用プログラムV3の作成		
	13	オブジェクト指向の基礎 II (4) 応用プログラムの作成	応用プログラムV4の作成		
	14	オブジェクト指向の基礎 II (5) 応用プログラムの作成	応用プログラムV5の作成		
	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめ、理解度の確認を行う		
16	期末試験				
テキスト	指定なし				
参考書	指定なし				
評価基準	<p>1. 期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	SWE	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	ソフトウェア工学の基礎				
教員氏名	中村 隆幸				
授業の方法	講義及び課題				
授業概要	<p>ハードウェアの基本的な仕組み(プロセサ、メモリー、入出力)から、ソフトウェアの実際(プログラム、アルゴリズム、データ構造、データベース、ネットワーク)とシステム構築まで。これからプログラマやSEを目指す入門者から、基本をひと通り学びたい文系エンジニアが対象。歴史のあるウォーターモデルの開発の基礎を学ぶ。</p> <p>また、近年のソフトウェアの技術の主流となる、人工知能(AI)、機械学習、深層学習の動向をキャッチアップし、ChatGPT等のAIソフトを自由に使いこなせるようにする。さらにソフトウェア開発の革新の流れ(ノーコード、RPA等)を説明する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーターフォール、アジャイルモデル、python言語が理解できている ・人工知能AIに関わるソフトウェア開発手法を理解できている ・人工知能AIの中身(ニューラルネットワーク、主成分分析、因子分析、クラスタ分析)の概要が理解できている 				
授業計画(60h)	No.	時限ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ソフトウェア工学の基本紹介	ソフトウェア工学の範囲、歴史、目的等		
	2	コンピュータの3大原則とは			
	3	コンピュータを作ってみよう			
	4	プログラムの流れ			
	5	データ構造とは			
	6	オブジェクト指向プログラム			
	7	人工知能の概要			
	8	Pythonの概要			
	9	機械学習とは			
	10	深層学習とは			
	11	ニューラルネットワーク			
	12	主成分分析の概要	←生徒の理解レベルによって変更する		
	13	因子分析の概要	←生徒の理解レベルによって変更する		
	14	クラスタ分析の概要	←生徒の理解レベルによって変更する		
	15	ウォーター・アジャイル開発			
16	期末試験				
テキスト	コンピュータはなぜ動くのか 第2版 知っておきたいハードウェア&ソフトウェアの基礎知識 単行本 - 2022/10/13 矢沢 久雄 (著)				
参考書	上記テキストに加え、適宜資料を用意				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(課題提出を含む)と出席率(40%)				

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	1JVP	必須/選択	必須	単位	-
科目	Javaプログラミング設計				
教員氏名	藤井 文一郎				
授業の方法	講義、小テスト、演習				
授業概要	コンピュータに問題解決の手順を教えるための言葉であるプログラム言語の習得を目的とする。前期では、JAVA言語を用いて、基本的なプログラミング技術の修得を目指す。具体的には変数・配列・条件分岐・繰り返し等の文法・役割・動作を学習し、それらを用いて簡単なプログラムを記述できることを目標とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラミング言語の制御構文を使用して、基本的なアルゴリズムを組み立てることができる。 2. 配列などの基本的なデータ構造を利用して、データ処理ができる。 3. メソッドの概念を理解し、プログラムを機能ごとに分割できる。 4. クラスの概念を理解し、基本的なクラスを作成できる。 5. 基本的なAPIを利用できる。 6. Servlet・JSPの概念を理解し、JavaのWebアプリケーション開発について理解を含める。 				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ガイダンス	授業目標と今後の進め方 Javaの基礎と特徴		
	2	環境の導入	Javaの開発環境のセットアップ		
	3	プログラム書式、変数、データ型	プログラム書式、変数の考え方、データ型について説明		
	4	式と演算子と条件式	Javaで用意されている演算子について説明と演算子を用いた様々な式の表現 条件式(if文)を用いた分岐 条件式(switch文)を用いた分岐と論理演算子		
	5	まとめ(小テスト)①	これまでの内容をまとめ 小テストを行う		
	6	ループ処理	for文を用いた繰り返し処理 while文を用いた繰り返し処理 do文を用いた繰り返し処理 多重の繰り返し処理		
	7	配列とコレクション	1次元配列の使い方とその応用 2次元配列の使い方とその応用 Collection、List、Mapについて		
	8	文字列	Character、String、StringBufferについて		
	9	まとめ(小テスト)②	これまでの内容をまとめ 小テストを行う		
	10	クラスの応用①	クラス概要 クラスの宣言、修飾子について		
	11	クラスの応用②	クラスの継承について説明		
	12	クラスの応用③	クラスからインスタンスを生成する方法、インスタンスの状態について メンバ変数とローカル変数の違い、メンバ変数宣言時に付与できる修飾子について		
	13	クラスの応用④	メソッドの宣言方法、メソッド宣言時に付与できる修飾子について コンストラクタの概要、宣言方法、コンストラクタを複数宣言する方法について		
	14	クラスの応用⑤	アクセスレベルの使用方法について static修飾子が付与されたクラス変数、クラスメソッドについて スーパークラスの概要、利用方法について		
	15	まとめ(小テスト)③	これまでの内容をまとめ 小テストを行う		
16	期末試験				
テキスト	スッキリわかるJava入門 著者：中山清喬・国本大悟 出版社：インプレス 定価：2,600円				
参考書	【参考書】 スッキリわかる サーブレット&JSP入門 著者：国本 大悟 【サイト】 Javaの道 http://www.javaroad.jp/index.htm				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験による総合評価(60%) 2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%) 				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	2JVP	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	Javaプログラミング設計				
教員氏名	藤井 文一郎				
授業の方法	講義、小テスト、演習				
授業概要	後半では、学んだ知識を前提にクラスとオブジェクトの概念を理解し、効率よくソフトウェアを記述するための知識として「クラスの継承、フィールド・メソッドの役割、インターフェースの実装」等を学ぶ。さらに、javaを用いたWebアプリケーション開発基本であるServlet・JSPについて学習できる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラミング言語の制御構文を使用して、基本的なアルゴリズムを組み立てることができる。 2. 配列などの基本的なデータ構造を利用して、データ処理ができる。 3. メソッドの概念を理解し、プログラムを機能ごとに分割できる。 4. クラスの概念を理解し、基本的なクラスを作成できる。 5. 基本的なAPIを利用できる。 6. Servlet・JSPの概念を理解し、JavaのWebアプリケーション開発について理解を含める。 				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	パッケージとインタフェース	Javaにおけるパッケージの概要について インタフェースの特徴、使用方法について		
	2	例外	例外 (try、catch、finally) について		
	3	Javaオブジェクト指向①	オブジェクト指向プログラミングの概要 メソッドの書き方 クラスとクラスメンバ、コンストラクタ		
	4	Javaオブジェクト指向②	スーパークラス、サブクラス オーバーロード、オーバーライド インタフェース、抽象クラス		
	5	ファイル入出力	Javaでのファイル入出力について		
	6	まとめ(小テスト)①	これまでの内容のまとめ 小テストを行う		
	7	Servlet・JSP/環境の導入	Servlet・JSPの文法・リファレンス情報、Servlet・JSPを使用した Webアプリケーションの開発方法について JavaのWebアプリケーション開発環境のセットアップ		
	8	Servlet基礎①	クライアントからのデータ取得、データ返信 初期化パラメータ		
	9	Servlet基礎②	スコープ、セッション管理、リスナーについて		
	10	JSPの概要	JSPの概要について説明		
	11	JSPのディレクティブ、宣言、スクリプトレット、式、アクションタグ	pageディレクティブとincludeディレクティブについて JSPの構成要素の内、宣言、スクリプトレット、式について <jsp:include>、<jsp:forward>について		
	12	JSPの暗黙オブジェクト	暗黙オブジェクト (request, response, pageContext, session, application, config, page, exception) について		
	13	JSPのカスタムタグ	カスタムタグの概要について tldファイルの作成方法について		
	14	JavaBeans	JavaBeansの概要 Servlet、JSP、JavaBeansの連携		
	15	まとめ(小テスト)②	これまでの内容のまとめ 小テストを行う		
16	期末試験				
テキスト	スッキリわかるJava入門 著者：中山清喬・国本大悟 出版社：インプレス 定価：2,600円				
参考書	【参考書】 スッキリわかる サーブレット&JSP入門 著者：国本 大悟 【サイト】 Javaの道 http://www.javaroad.jp/index.htm				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験による総合評価(60%) 2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%) 				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	DBS	必須/選択	必須	単位	2単位
科目	データベース・システムの原理				
教員氏名	中村 隆幸				
授業の方法	講義及び課題				
授業概要	データベースの企業導入事例等を交えながら本授業では無料のSQL言語を用いてSQLの基礎を学習する。目標としては企業に就職したときに自由にSQL言語が書けることとする。				
到達目標	企業に就職したときに自由にSQL言語が書けることとする。				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	SQLの種類、MySQLインストール	MySQLのインストール		
	2	第1章初めてのSQL	MySQLの動作確認		
	3	第2章基本文法	簡単な文法(どのSQLでも書けるレベル)		
	4	第3章データの絞り込み	事例を用いて書いてみる		
	5	第4章検索結果の加工			
	6	第5章式と関数			
	7	第6章集計とグループ化			
	8	第7章副問い合わせ			
	9	第8章複数テーブルの結合			
	10	第9章トランザクション			
	11	第10章テーブルの作成			
	12	MS-ACCESSの使い方	グラフィカルDBとSQL文の生成		
	13	ODBCの使い方			
	14	データベースの設計			
	15	練習問題			
16	期末試験				
テキスト	スッキリわかるSQL入門 著者:中山清喬・飯田理恵子 出版社:インプレス 定価:2,800円				
参考書	上記テキストに加え、適宜資料を用意				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(課題提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	DBE	必須/選択	必須	単位	2単位
科目	データベース演習				
教員氏名	藤井 文一郎				
授業の方法	講義と演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ Webアプリと連携するデータベースの設計と実装</p> <p>②授業の内容 各自の制作テーマを実現する手段としてデータベースを位置付ける TABLEを設計し、EntityクラスとRepositoryを実装する H2からMySQLへのマイグレーションを経験する</p> <p>③学習方法 ・システム構築演習と連携して学習を進める ・各自テーマの制作計画に沿ってデータベースの設計と実装を行う ・毎回計画に沿って制作する ・制作結果を進捗レポートして記録する ・PDCAを実践する</p> <p>④事後展開学修 ・進捗レポートから次回への取組課題を認識して、必要な準備を各自の判断で進める</p>				
到達目標	各自テーマの実装完成を目指す				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	開発環境整備	H2の導入		
	2	基礎演習1	TABLE設計、Repositoryの作成方法		
	3	基礎演習2	H2consoleの使い方とSQL(1)		
	4	基礎演習3	H2consoleの使い方とSQL(2)		
	5	テーマ別演習(1-1)	Entityクラス実装		
	6	テーマ別演習(1-2)	Repositoryクラス実装		
	7	設計見直し	制作物の評価と再計画		
	8	テーマ別演習(2-1)	Entityクラス再実装		
	9	テーマ別演習(2-2)	Repositoryクラス再実装		
	10	MySQLマイグレーション1	マイグレーション要件の調査・分析		
	11	MySQLマイグレーション2	移行準備		
	12	校内DBサーバへの移行1	校内DBサーバでの実装		
	13	校内DBサーバへの移行2	校内DBサーバでの動作確認		
	14	レビュー1	制作物の最終評価		
15	レビュー2	考察まとめ			
テキスト	指定なし				
参考書	指定なし				
評価基準	1.演習課題(60%) 2.出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	1JPS	必須/選択	必須	単位	-
科目	システム構築演習				
教員氏名	大津 崇				
授業の方法	講義と演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ ウォーターフォールモデルに準じたWebアプリ開発の基本を習得する 卒業研究テーマに沿った開発環境を整備する</p> <p>②授業の内容 python、django を活用してWebアプリの開発方法を学ぶ bootstrap5との連携を活用してviewの制作方法を学ぶ 設計の基本とMVCモデルの実際を習得する</p> <p>③学習方法 ・開発環境の構築から始める ・毎回テーマに沿った簡単なアプリを制作する ・制作結果を進捗レポートして記録する</p> <p>④事後展開学修 ・進捗レポートから次回への取組課題を認識して、必要な準備を各自の判断で進める</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Djangoのインストールと活用 ・bootstrap5の導入 ・DB(SQLite)の理解と応用 ・管理ページの役割とデザイン ・システム要求書の作成 				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	チュートリアル	授業の目的と進め方 進捗報告書の導入		
	2	システム構築環境整備(1)	djangoの導入、簡単なアプリケーションの作成		
	3	システム構築環境整備(2)	モデル(DB)の位置づけ、操作		
	4	入門アプリケーション制作(1)	投票アプリの制作		
	5	入門アプリケーション制作(2)	管理ページの機能実装		
	6	入門アプリケーション制作(3)	プロジェクトのまとめ		
	7	bootstrap5導入(1)	日記アプリケーション制作(1)		
	8	bootstrap5導入(2)	日記アプリケーション制作(2)		
	9	卒研制作準備(1)	基本設計書の作成(1)		
	10	卒研制作準備(2)	基本設計書の作成(2)		
	11	卒研制作準備(3)	開発環境整備		
	12	卒研制作準備(4)	システム設計書の作成(1)		
	13	卒研制作準備(5)	システム設計書の作成(2)		
	14	卒研制作準備(6)	ソフトウェア設計書の作成(1)		
15	卒研制作準備(7)	ソフトウェア設計書の作成(2)			
テキスト	指定なし				
参考書	指定なし				
評価基準	1.演習課題(60%) 2.出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	2JPS	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	システム構築演習				
教員氏名	大津 崇				
授業の方法	講義と演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ Webアプリ開発の応用</p> <p>②授業の内容 前期で学んだWebアプリの開発方法を活用して、各自の制作テーマを実装する プロトタイピング方式で、作りながら改善を繰り返す WBSの運用を学ぶ</p> <p>③学習方法 ・各自テーマの制作計画を立てる ・毎回計画に沿って制作する ・制作結果を進捗レポートして記録する ・制作したレポートを発表する ・他者の発表に対して意見を述べる ・PDCAを実践する</p> <p>④事後展開学修 ・進捗レポートから次回への取組課題を認識して、必要な準備を各自の判断で進める</p>				
到達目標	各自テーマの実装完成を目指す				
授業計画(90h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	制作計画(1)	テーマ選定と制作計画(WBS)		
	2	制作(1-1)	初期設計		
	3	制作(1-2)	実装(1-1)		
	4	制作(1-3)	実装(1-2)		
	5	制作計画(2)	制作物の評価と再計画		
	6	制作(2-1)	設計見直し1		
	7	制作(2-2)	実装(2-1)		
	8	制作(2-3)	実装(2-2)		
	9	制作計画(3)	制作物の再評価と再々計画		
	10	制作(3-1)	設計見直し2		
	11	制作(3-2)	実装(3-1)		
	12	制作(3-3)	実装(3-2)		
	13	制作結果評価	制作物の最終評価		
	14	制作見直し(1)	運用評価のまとめ		
15	制作見直し(2)	考察まとめ			
テキスト	指定なし				
参考書	指定なし				
評価基準	1.演習課題(60%) 2.出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	1SNS	必須/選択	必須	単位	-
科目	サーバ・ネットワーク構築演習・セキュリティ				
教員氏名	南 薫伯/椎名 将之				
授業の方法	ウェブサイトの作成及びアプリケーションの開発を中心とした講義を展開します。				
授業概要	インターネットでは、多様なWebサイトやWebアプリケーションが提供されています。それらのサービスは、大きく分けて、フロントエンドとバックエンドという2つの仕組みによって動いています。この授業の進み方として、前期ではWebサイトやWebアプリケーションのサービスとアプリケーションを開発するために必要とする基礎プログラミング知識と技術を学びます。後期では前期勉強した技術を用い、実際のサイトとアプリケーションを開発しながら、それらの技術に対する理解を深めていきます。				
到達目標	一年間を通して行う講座のため、前期はウェブ制作・アプリケーション開発の基礎技術が身につくことを目標とし、後期は生徒が自力でウェブゲームやアプリケーションが開発できるようになることを目標とします。				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション インターネットの通信仕組	授業の進み方と評価し方を紹介し、インターネットの通信仕組を紹介します。		
	2	HTML基礎(1)	HTMLの基礎とよく使われるタグを紹介し、授業中、紹介した知識を応用し、練習をやってもらいます。CSSの基礎を紹介し、HTMLで応用します。GIMP等のグラフィック編集ソフトも利用し、個人ホームページを作成してもらいます。		
	3	HTML基礎(2)			
	4	HTML基礎(3)			
	5	CSS基礎(1)			
	6	CSS基礎(2)			
	7	CSS基礎(3)			
	8	練習	JavaScriptの基礎とHTMLの中での応用し方を学びます。JavaScriptとHTMLとCSSを用い、GIMP等のグラフィック編集ソフトも利用し、ウェブアプリを作成してもらいます。		
	9	JavaScript基礎(1)			
	10	JavaScript基礎(2)			
	11	JavaScript基礎(3)			
	12	JavaScript基礎(4)			
	13	JavaScript基礎(5)	試験に向けてHTML、CSS、JavaScriptの復習		
	14	練習			
	15	復習			
16	期末試験				
テキスト	田中 賢一郎, 2022. 『ゲームで学ぶJavaScript入門』 増補改訂版, インプレス.				
参考書	大藤幹, 半場方人 (2017) 『HTML&CSS&JavaScript辞典』第7版, 秀和システム.				
評価基準	1.授業内での演習課題(30%) 2.出席率(30%) 3.期末試験(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	2SNS	必須/選択	必須	単位	-
科目	サーバ・ネットワーク構築演習・セキュリティ				
教員氏名	南 薫伯/椎名 將之				
授業の方法	ウェブサイトの作成及びアプリケーションの開発を中心とした講義を展開します。				
授業概要	インターネットでは、多様なWebサイトやWebアプリケーションが提供されています。それらのサービスは、大きく分けて、フロントエンドとバックエンドという2つの仕組みによって動いています。この授業の進み方として、前期ではWebサイトやWebアプリケーションのサービスとアプリケーションを開発するために必要とする基礎プログラミング知識と技術を学びます。後期では前期勉強した技術を用い、実際のサイトとアプリケーションを開発しながら、それらの技術に対する理解を深めていきます。				
到達目標	一年間を通して行う講座のため、前期はウェブ制作・アプリケーション開発の基礎技術が身につくことを目標とし、後期は生徒が自力でウェブゲームやアプリケーションが開発できるようになることを目標とします。				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション、JavaScript応用(1)	前期で学んだHTML、CSS、JavaScriptの技術を応用しながら、後期の15回授業を通して、13個のミニゲームを作ってもらいます。		
	2	JavaScript応用(2)			
	3	JavaScript応用(3)			
	4	JavaScript応用(4)			
	5	JavaScript応用(5)			
	6	JavaScript応用(6)			
	7	JavaScript応用(7)			
	8	JavaScript応用(8)			
	9	JavaScript応用(9)			
	10	JavaScript応用(10)			
	11	JavaScript応用(11)			
	12	JavaScript応用(12)			
	13	JavaScript応用(13)			
	14	JavaScript応用(14)			
	15	JavaScript応用(15)			
16	期末発表				
テキスト	田中 賢一郎, 2022. 『ゲームで学ぶJavaScript入門』 増補改訂版, インプレス.				
参考書	大藤幹, 半場方人 (2017) 『HTML&CSS&JavaScript辞典』第7版, 秀和システム.				
評価基準	1.授業内での演習課題(30%) 2.出席率(30%) 3.期末発表(40%)				

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	3SNS	必須/選択	必須	単位	5単位
科目	サーバ・ネットワーク構築演習・セキュリティ				
教員氏名	藤井 文一郎				
授業の方法	講義を通して情報システムの環境構築概念を習得する。次に実機及びツールなどを利用し情報システムの環境構築及び運用保守の演習(実習)を通じて情報システム環境構築の利活用に必要な知識と基本技術を習得することを目指す。				
授業概要	日本は情報化が急速に進展中。日々の生活や様々な活動の中で、今後も情報システムの利用が進展するのは必至。本授業では、情報システムの環境構築に欠かせないサーバやネットワークおよびセキュリティの基本知識について解説する。本授業では、情報システムの環境構築に欠かせないサーバやネットワークの構築と運用保守およびそれらを通じて提供される様々なサービスに存在するセキュリティ対策について、解説する。				
到達目標	情報化社会で欠かせない情報システム環境においてサーバやネットワークおよびセキュリティの基本知識の習得し、高度化する情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ネットワークの基礎知識	LANとWAN、インターネットワーキングの概念、クライアントサーバとピアツーピア、OSI参照モデルについて解説します。		
		IPアドレスの基礎知識	IPアドレスのビット数、ネットワークアドレスとホストアドレスの分け方、クラス、ホストアドレスが全部0・全部1のアドレスについて解説します。		
	2	サブネットマスク	ネットワークアドレスとホストアドレスを効率よく分けるため、サブネットマスクが使われていること、使えるアドレスの計算などを解説・実践していきます。		
		TCP/IPの基礎知識	データをパケットで転送すること、その際に3ウェイハンドシェイクが用いられることなどについて解説します。		
	3	疎通確認	Pingコマンドを用い、実際に情報機器の疎通確認を体験していただきます。		
		ルータ・ルーティング1	ルータについての基礎知識、及びルータが2個以上繋がるネットワークはルーティングが必要であることなどを解説します。また、スタティックルーティングを体験していただきます。		
	4	ルータ・ルーティング2	ダイナミックルーティングについて、プロトコルの違いについて解説し、実際に操作を体験していただきます。		
		オペレーティングシステム	オペレーティングシステム種類、歴史と特徴について解説します。		
	5	スイッチ・ポートについて	スイッチの使い方やポートについて解説します。スイッチを用いたネットワークの構築も体験していただきます。		
		VLAN	レイヤ2で動くスイッチでも、VLANを使えばネットワークを分けられることなどを解説します。実際にVLANを用いたネットワークの構築を体験していただきます。		
	6	VLAN間ルーティング	VLAN間ルーティングについて解説し、実習ではVLAN間ルーティングを実際に体験していただきます。		
		ACL	アクセスコントロールリストを使えば、アクセスできる相手を決められることなどを解説し、体験していただきます。		
	7	NAT	ローカルアドレスとグローバルアドレスの違いなどについて解説し、実習で体験していただきます。		
		DHCP	自動でIPアドレスを振り分ける方法を解説し、実習で体験していただきます。		
	8	イーサチャンネル	イーサチャンネルの設定の仕方などについて解説し、体験していただきます。		
STP		ブロードキャストストームを防ぐSTPについて、その構造について解説します。			
9	冗長化	ネットワークではSTPが働くので、単にルータを増やしただけでは冗長化出来ないこと、冗長化に使われるプロトコルなどについて解説します。			
	Ipv6	WEBサーバ、DHCP、DNS、SSL/TLS、SMTP、POP3とIMAP4、FTP、Syslog、MRTG等のサーバサービスの設定、役割について解説します。			

	10	QoS	ネットワークスイッチの実機もしくはツールを利用し、起動から初期の基本設定について解説します。	
		システムログ	ネットワークスイッチのSTP、OSPF、運用、保守に関わる設定について解説します。	
	11	ネットワークアーキテクチャ	ネットワークの設計図であるアーキテクチャ、規模によって2層か3層に分けることなどについて解説します。	
		セキュリティ	パスワードの設定やファイアウォールなどについて解説します。	
	12	認証	認証方法の種類、AAA、AAAが使われるプロトコルなどについて解説します。また、RADIUSやTACACS+を用いたネットワークの構築を体験していただきます。	
		ワイヤレスLAN	ワイヤレスLANで使われる電波の周波数、ワイヤレスLANコントローラの働きなどについて解説します。また、ワイヤレスLANコントローラを用いたネットワークの構築を体験していただきます。	
	13	SDN	SDNのアーキテクチャ、ノースバンド・サウスバンドで使われるAPIのプロトコルの種類などについて解説します。	
		新しいネットワーク技術	プログラマビリティ、JSON、構成管理ツールといったネットワークの新しい技術について解説します。	
	14	まとめ	これまで学んだことを振り返り、企業や社会における情報システム環境構築の役割俯瞰して、全体のまとめを行う。	
	15	CCNA実践問題	過去にCCNAで出題された問題にご回答いただきます。模擬試験後、解説します。	
		実習テスト	これまで勉強してきた知識を駆使して、実機(パケットトレーサー)を用いたテストを行います。 ※期末試験とは別の授業内の小テストの扱い。平常点に反映します。	
	16	期末試験		
	テキスト	教科書、参考書は講義中に指示する。		
	参考書	サーバ・ネットワーク・セキュリティを含め、各ベンダー社提供の教材を無償配付する。		
	評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	INS	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	インターネット/セキュリティ				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①授業のテーマ 過去のインターネットでのトラブルやデジタル犯罪から対策方法を学び、セキュリティへの理解を深める。本授業によりインターネットセキュリティへの基本的な考え方、対応策の知識を習得する。</p> <p>②授業の内容 インターネットの重要性、利便性の理解を深めつつ、過去に起こったネットトラブルや犯罪、事件等からインターネットのリスクと回避方法を学ぶ。</p> <p>③事前準備学修 参考資料を準備して読み込んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 授業で配布した資料の復習と授業内で説明した技術を自分で調べて学習を深めておく。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 標準的なWINDOWSマシンでのセキュリティ対策が自分で行えるようになる。 インターネットセキュリティを自分で適切に行うことができる。 				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	イントロダクションインターネットを使ったサービスを学ぶ	インターネット、メール、サーバ、クラウド、コンピュータウイルス、ワーム、Winny		
	2	インターネットの仕組みと攻撃について概要を学ぶ	サービスの仕組みと攻撃要素について		
	3	情報セキュリティの脅威(個人)	スマホ決済の不正利用、フィッシングによる個人情報等の詐取、ネット上の誹謗・中傷・デマ、メールやSMS等を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求、クレジットカード情報の不正利用、インターネットバンキングの不正利用、インターネット上のサービスからの個人情報の窃取、偽警告によるインターネット詐欺、不正アプリによるスマートフォン利用者への被害、インターネット上のサービスへの不正ログイン		
	4				
	5				
	6				
	7	情報セキュリティの脅威(組織)	ランサムウェアによる被害、標的型攻撃による機密情報の窃取、テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃、サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃、ビジネスメール詐欺による金銭被害、内部不正による情報漏えい、予期せぬIT基盤の障害に伴う業務停止、“インターネット上のサービスへの不正ログイン”、不注意による情報漏えい等の被害、脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加		
	8				
	9				
	10				
	11	Windows セキュリティ	ウイルスと脅威の防止 ファイアウォールとネットワーク保護 フォルダーオプション		
	12				
	13				
	14	授業のまとめ	授業をまとめる		
	15				
16	期末試験				
テキスト	『図解まるわかり セキュリティのしくみ』株式会社翔泳社				
参考書	※基本的に、スライドや授業で都度用意する資料を中心に授業を進めます。				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	BIK	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	ビジネス情報基礎(パソコン操作・フローチャート)				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	機械の基本操作等を含め、情報リテラシー全般を身につけるための授業である。実習を中心とし、コンピュータ初心者も必要な操作ができるようにする。				
到達目標	技術者としてもちろん、事務系の仕事に就きたい学生に対しても、仕事で求められるパソコンの基礎操作能力および、情報を処理する能力を身につけることを授業の目標とする。				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション、コンピューター概論	授業の進み方 試験の特徴・内容構成・申請方法等 コンピュータと情報について解説		
	2	文字入力①	キーボード練習		
	3	文字入力②	日本語タイピング練習		
	4	インターネットの利用方法	ネットワークの分類、インターネットの歴史、ウェブサービス、メールの書き方		
	5	情報の調べ方・まとめ方	インターネット上で情報を集める方法		
	6	情報と法律	著作権などの法規と倫理		
	7	情報とセキュリティ	インターネット上のセキュリティ対策		
	8	文字編集	Wordの使い方		
	9	表計算	Excelの使い方		
	10	プレゼンテーション	PowerPointの使い方		
	11	グラフィック画像編集	GIMPの使い方		
	12	動画編集	DaVinci Resolveの使い方		
	13	3Dモデリング	Blenderの使い方		
	14	コンピューターとネットワークの仕組み	コンピュータとインターネットの構成とそれぞれ機能の実現方法		
	15	フローチャット	フローチャットの作成方法		
テキスト	奥村晴彦, 森本尚之, 2024.『基礎からわかる情報リテラシー』改訂第5版, 技術評論社.				
参考書	無し				
評価基準	授業内での理解度と出席率(100%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	BIO	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	ビジネス情報応用(ビジネスソフト・データ分析)				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	講義				
授業概要	データサイエンスと機械学習の概念を中心に、データ収集と整形をはじめ、分析までの手法について学ぶ。人工知能分野とデータサイエンス分野において、よく知られるプログラミング言語として、Pythonの使い方を1から学ぶ。				
到達目標	技術者としてもちろん、事務系の仕事に就きたい学生に対しても、仕事で求められるデータを取得し、分析する能力を身につけることを授業の目標とする。				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション Python入門1	授業の進み方 試験の特徴・内容構成・申請方法等 paizaの利用方法の説明、Python入門編1～5の学習		
	2	Python入門2	paizaのPython入門編6～10の学習		
	3	Python入門3	paizaのPython入門編11～15の学習		
	4	Python入門4	paizaのPython入門編16～20の学習		
	5	Python入門5	paizaのPython入門編21～25の学習		
	6	連携復習1	Python・JAVA・JavaSprite連携復習1		
	7	連携復習2	Python・JAVA・JavaSprite連携復習2		
	8	データサイエンスの基礎1	データサイエンスの解釈、Pythonを利用してデータ分析の紹介		
	9	データサイエンスの基礎2	Numpyの使い方		
	10	データサイエンスの基礎3	Pandasの使い方		
	11	データサイエンスの基礎4	練習課題		
	12	機械学習/ディープラーニングの基礎1	AI・機械学習・ディープラーニングの解釈		
	13	機械学習/ディープラーニングの基礎2	Scikit-learnの利用方法の紹介		
	14	機械学習/ディープラーニングの基礎3	TensorFlowの利用方法の紹介		
15	機械学習/ディープラーニングの基礎4	練習課題			
テキスト	鶴長鎮一, 2023.『これからはじめる Python入門講座——文法から機械学習までの基本を理解』, 技術評論社.				
参考書	無し				
評価基準	授業内での理解度と取組み度合と出席率(100%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	BS1	必須/選択	必須	単位	1単位
科目	ビジネスソフト演習I (Word, Excel)				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	実習、模擬試験				
授業概要	<p>①授業のテーマ MOS(Word Associate/Excel Associate)の資格取得を目指す者に長年愛用されてきたテキストを用いながら、演習問題・模擬試験に取り組む。</p> <p>②授業の内容 《Word 365&2019》 ・各Lessonの演習問題の実演解説 ・模擬試験でのスキルチェック 《Excel 365&2019》 ・各Lessonの演習問題の実演解説 ・模擬試験でのスキルチェック</p> <p>③事前準備学修 ・時間がある時にキーボードに触れ、一つでも多くのショートカット機能を身につけておく ・授業に臨む前に、“WordやExcelでこんなことができるんだ！”と自分でもできるイメージを膨らませておく</p> <p>④事後展開学修 ・演習問題、模擬試験を通じて一つでも便利な機能を覚えたら、日常生活に於いても使いこなすようにする ・完璧にできたつもりでもそのままにせず、時間のある時に再度確認をしながら、日々のスキルアップを怠らない</p>				
到達目標	Word 365&2019及びExcel 365&2019のスキルを世界的に証明するMOS資格(Microsoft®Office Specialist)の取得を目指す。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	MOS Word 365&2019 とは？	MOS試験の出題範囲とWordの事前スキルチェック		
	2	Word 365&2019 ①	文書の管理		
	3	Word 365&2019 ②	文字、段落、セクションの挿入と書式設定		
	4	Word 365&2019 ③	表やリストの管理		
	5	Word 365&2019 ④	参考資料の作成と管理		
	6	Word 365&2019 ⑤	グラフィック要素の挿入と書式設定		
	7	Word 365&2019 ⑥	文書の共同作業の管理		
	8	MOS Excel 365&2019 とは？	MOS試験の出題範囲とExcelの事前スキルチェック		
	9	Excel 365&2019 ①	ワークシートやブックの管理		
	10	Excel 365&2019 ②	セルやセル範囲のデータの管理		
	11	Excel 365&2019 ③	テーブルとテーブルのデータの管理		
	12	Excel 365&2019 ④	数式や関数を使用した演算の実行		
	13	Excel 365&2019 ⑤	グラフの管理		
	14	模擬試験 ①	MOS試験本番を想定した模擬試験(Word/Excel)		
	15	模擬試験 ②	予備日		
16	期末試験	筆記(Word/Excelに関する出題)			
テキスト	<p>よくわかるマスター MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 著作&制作：富士通エフ・オー・エム株式会社 出版社：FOM出版</p> <p>よくわかるマスター MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 著作&制作：富士通エフ・オー・エム株式会社 出版社：FOM出版</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内で行う模擬試験(課題ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	BS2	必須/選択	必須	単位	1単位
科目	ビジネスソフト演習Ⅱ (PowerPoint, Access)				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	演習、模擬試験				
授業概要	<p>①授業のテーマ MOS(PowerPoint Associate/Access Expert)の資格取得を目指す者に長年愛用されてきたテキストを用いながら、演習問題・模擬試験に取り組む。</p> <p>②授業の内容 《PowerPoint 365&2019》 ・各Lessonの演習問題の実演解説 ・模擬試験でのスキルチェック 《Access 365&2019 Expert》 ・各Lessonの演習問題の実演解説 ・模擬試験でのスキルチェック</p> <p>③事前準備学修 ・時間がある時にキーボードに触れ、一つでも多くのショートカット機能を身につけておく ・授業に臨む前に、“PowerPointやAccessでこんなことができるんだ！”と自分でもできるイメージを膨らませておく</p> <p>④事後展開学修 ・演習問題、模擬試験を通じて一つでも便利な機能を覚えたら、日常生活に於いても使いこなすようにする ・完璧にできたつもりでもそのままにせず、時間のある時に再度確認をしながら、日々のスキルアップを怠らない</p>				
到達目標	PowerPoint 365&2019及びAccess 365&2019 Expertのスキルを世界的に証明するMOS資格 (Microsoft® Office Specialist) の取得を目指す。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	MOS PowerPoint 365&2019 とは？	MOS試験の出題範囲とPowerPointの事前スキルチェック		
	2	PowerPoint 365&2019 ①	プレゼンテーションの管理		
	3	PowerPoint 365&2019 ②	スライドの管理		
	4	PowerPoint 365&2019 ③	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定		
	5	PowerPoint 365&2019 ④	表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入		
	6	PowerPoint 365&2019 ⑤	画面切り替えやアニメーションの挿入		
	7	MOS Access 365&2019 Expert とは？	MOS試験の出題範囲とAccessの事前スキルチェック		
	8	Access 365&2019 Expert ①	オブジェクトの各役割(テーブル、クエリ、フォーム、レポート)		
	9	Access 365&2019 Expert ②	データベースの管理		
	10	Access 365&2019 Expert ③	テーブルの作成と変更		
	11	Access 365&2019 Expert ④	クエリの作成と変更		
	12	Access 365&2019 Expert ⑤	レイアウトビューを使ったフォームの変更		
	13	Access 365&2019 Expert ⑥	レイアウトビューを使ったレポートの変更		
	14	模擬試験 ①	MOS試験本番を想定した模擬試験(PowerPoint/Access)		
	15	模擬試験 ②	予備日		
16	期末試験	筆記(PowerPoint/Accessに関する出題)			
テキスト	<p>よくわかるマスター MOS PowerPoint 365 & 2019 対策テキスト&問題集 著作&制作：富士通エフ・オー・エム株式会社 出版社：FOM出版</p> <p>よくわかるマスター MOS Access 365 & 2019 (Expert) 対策テキスト&問題集 著作&制作：富士通エフ・オー・エム株式会社 出版社：FOM出版</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内で行う模擬試験(課題ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	MSV	必須/選択	必須	単位	2単位
科目	マイクロソフトオフィス(VBA含む)				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ Excel VBAの仕組みを理解し、数値計算、データの整理、分析するためのプログラミングスキルを身につける</p> <p>②授業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マクロ ・シートの自動作成 ・VBA ・シートのコピーと移動 ・変数 ・データの転記 ・分岐 ・セルの操作 ・繰り返し ・エラー処理 ・基本操作のまとめ ・関数の利用 ・これまでの処理のまとめ <p>③事前準備学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当ページを読み、キーワードとなる専門用語の意味を調べておく ・授業に臨む前に、“Excel VBAでこんなことができるんだ！”と自分でもできるイメージを膨らませておく <p>④事後展開学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習、演習を通じて一つでも便利な機能を覚えたら、日常生活に於いても使いこなすようにする ・完璧にできたつもりでもそのままにせず、時間のある時に再度確認をしながら、日々のスキルアップを怠らない 				
到達目標	Excelの機能の1つであるマクロがどんなものであるか正しく理解し、プログラミング言語の1つであるVBAで一通りプログラムが書けるようになる。『予約表』をサンプルに、Excel VBAで自動計算、データの整理、分析を行うための一連のプログラム、マクロを組むことができる。				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	マクロ	マクロとは？マクロを使ったシートの自動化		
	2	VBA(1)	VBAとは？VBAの基本構文		
	3	VBA(2)	VBAを使った命令文の作り方		
		変数(1)	変数とは？		
	4	変数(2)	変数の基本文法		
			変数を使ったプログラム		
	5	分岐(1)	分岐とは？		
			分岐を使ったプログラム(比較演算子)		
	6	分岐(2)	分岐を使ったプログラム(論理演算子)		
		繰り返し(1)	繰り返しとは？		
	7	繰り返し(2)	繰り返しを使ったプログラム(For～文)		
			繰り返しを使ったプログラム(Do～文)		
	8	自動作成	予約表の作成		
			名簿の作成		
	9	シートのコピーと移動	シートのコピーのしかた		
		シートの移動のしかた			
10	データの転記と抽出	データの転記のしかた			
		データの抽出のしかた			
11	セルの操作	オブジェクト“Range”を使った操作			
		オブジェクト“Cells”を使った操作			
12	エラー処理	デバック機能を使った処理			
		その他の方法での処理			
13	関数の利用(1)	文字列操作に関するもの			
		データ判定に関するもの			
14	関数の利用(2)	日付・時刻に関するもの			
		配列に関するもの			
15	まとめ	これまでの総合練習問題			
16	期末試験				
テキスト	立山秀利(2018)『図解！Excel VBAのツボとコツがゼッタイにわかる本 ～プログラミング実践編～』秀和システム				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	1GIN	必須/選択	必須	単位	-
科目	卒業研究				
教員氏名	飯箸 泰宏、焦 岩				
授業の方法	講義、個別指導、発表				
授業概要	卒業研究は、IT分野における新規開発課題を自ら見出して、問題を解決する手法を調査または発見し、それを工学的に実現する能力、さらに開発の目的と得られた成果をわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。研究の最終的な目標を実現するために、具体的な問題の解決を実践する。さらに、これらの実践を自分以外の人に分かりやすく説明するために、研究の結果を整理して論文にまとめる。				
到達目標	<p>(1) 関連知識や関連研究を学習・調査し、問題解決に向けたプロセスを自ら組み立て、種々の方策を施行する。</p> <p>(2) 卒業研究のテーマ設定にそって、研究を完成させる。</p> <p>(3) 研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、卒業論文発表会においてその成果を発表する。</p> <p>上記の目標のために、情報分野の研究者・技術者として求められる下記の能力を習得することを目標とする。</p> <p>① 自分で研究環境の構築・整備ができる能力。</p> <p>② 関連分野の基礎知識と、関連研究を調査する能力。</p> <p>③ 問題発見能力・問題分析能力・問題解決能力。</p> <p>④ ドキュメンテーション能力とプレゼンテーション能力。</p> <p>⑤ 自ら計画を立て、実行する自己管理能力。</p>				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	個別指導(第1回)(1)	提出を求める卒論まえがき部分の添削内容に基づいた個別指導		
	2	個別指導(第1回)(2)	提出を求める卒論まえがき部分の添削内容に基づいた個別指導		
	3	システム構成の相談(1)	システムの構成方法についての個別相談会		
	4	システム構成の相談(2)	システムの構成方法についての個別相談会		
	5	進捗報告(第1回)(1)	テーマの位置づけに関する進捗プレゼンテーション		
	6	進捗報告(第1回)(2)	テーマの位置づけに関する進捗プレゼンテーション		
	7	個別指導(第2回)(1)	プレゼンにおいて指摘される問題点に関する指導など		
	8	個別指導(第2回)(2)	プレゼンにおいて指摘される問題点に関する指導など		
	9	システム構築に関する指導(1)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	10	システム構築に関する指導(2)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	11	システム構築に関する指導(3)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	12	システム構築に関する指導(4)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	13	進捗報告(第2回)(1)	システム構築状況に関する報告会		
	14	進捗報告(第2回)(2)	システム構築状況に関する報告会		
15	中間発表				
テキスト	個別に指導する。				
参考書	個別に指導する。				
評価基準	<p>1.評価は、指導教員が、各人のテーマにあわせて適した内容を適した順序で個別に指導した上で、以下の基準で実施する。</p> <p>(1) 基礎知識: 研究を遂行するに必要な知識を有しているか、など。</p> <p>(2) 調査能力: 背景知識を有しているか、自分の研究の位置づけを理解しているか、など。</p> <p>(3) 問題発見: 分析・解決能力: 課題が明確になっているか、十分な事前評価を行ったか、自発的にアイデアを出したか、など。</p> <p>(4) 計画・実行能力: 実験計画などの自発的提案があったか、研究・開発手段の整備に積極的に取り組んだか、共同研究者との協力関係を効果的に果たしたか、など。</p> <p>(5) 研究の貢献内容: 研究・開発の成果が認められるか、将来の課題や展望などが述べられているか、など。</p> <p>(6) 表現能力: 論理が明確か、文章の記述・図表の使用は適切か、質疑応答は的確に行えたか、など。</p> <p>(7) 自己管理能力: 自ら研究計画を立て、それを着実に遂行したか、など。</p> <p>(8) 平常点: 研究への取り組み態度、輪講・ディスカッションへの出席状況、ディスカッションへの参加、など。</p> <p>2.システム構築内容による総合評価(70%)</p> <p>3.出席率(30%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	2GIN	必須/選択	必須	単位	4単位
科目	卒業研究				
教員氏名	飯箸 泰宏、焦 岩				
授業の方法	講義、個別指導、発表				
授業概要	卒業研究は、IT分野における新規開発課題を自ら見出して、問題を解決する手法を調査または発見し、それを工学的に実現する能力、さらに開発の目的と得られた成果をわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。研究の最終的な目標を実現するために、具体的な問題の解決を実践する。さらに、これらの実践を自分以外の人に分かりやすく説明するために、研究の結果を整理して論文にまとめる。				
到達目標	<p>(1) 関連知識や関連研究を学習・調査し、問題解決に向けたプロセスを自ら組み立て、種々の方策を施行する。</p> <p>(2) 卒業研究のテーマ設定にそって、研究を完成させる。</p> <p>(3) 研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、卒業論文発表会においてその成果を発表する。</p> <p>上記の目標のために、情報分野の研究者・技術者として求められる下記の能力を習得することを目標とする。</p> <p>① 自分で研究環境の構築・整備ができる能力。</p> <p>② 関連分野の基礎知識と、関連研究を調査する能力。</p> <p>③ 問題発見能力・問題分析能力・問題解決能力。</p> <p>④ ドキュメンテーション能力とプレゼンテーション能力。</p> <p>⑤ 自ら計画を立て、実行する自己管理能力。</p>				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	個別指導(第3回)(1)	プレゼンにおいて指摘される問題点に関する指導など		
	2	個別指導(第3回)(2)	プレゼンにおいて指摘される問題点に関する指導など		
	3	システム構築に関する指導(1)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	4	システム構築に関する指導(2)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	5	システム構築に関する指導(3)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	6	システム構築に関する指導(4)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	7	被験者実験に関する指導(1)	システム評価のための調査・実験手法の指導		
	8	被験者実験に関する指導(2)	システム評価のための調査・実験手法の指導		
	9	論文作成指導(1)	卒業論文の書き方に関する指導		
	10	論文作成指導(2)	卒業論文の書き方に関する指導		
	11	進捗報告(第3回)(1)	システムのデモの公開		
	12	進捗報告(第3回)(2)	システムのデモの公開		
	13	評価方法の指導(1)	各自のシステムの評価方法についての個別指導		
	14	評価方法の指導(2)	各自のシステムの評価方法についての個別指導		
15	発表				
テキスト	個別に指導する。				
参考書	個別に指導する。				
評価基準	<p>1. 評価は、指導教員が、各人のテーマにあわせて適した内容を適した順序で個別に指導した上で、以下の基準で実施する。</p> <p>(1) 基礎知識: 研究を遂行するに必要な知識を有しているか、など。</p> <p>(2) 調査能力: 背景知識を有しているか、自分の研究の位置づけを理解しているか、など。</p> <p>(3) 問題発見: 分析・解決能力: 課題が明確になっているか、十分な事前評価を行ったか、自発的にアイデアを出したか、など。</p> <p>(4) 計画・実行能力: 実験計画などの自発的提案があったか、研究・開発手段の整備に積極的に取り組んだか、共同研究者との協力関係を効果的に行ったか、など。</p> <p>(5) 研究の貢献内容: 研究・開発の成果が認められるか、将来の課題や展望などが述べられているか、など。</p> <p>(6) 表現能力: 論理が明確か、文章の記述・図表の使用は適切か、質疑応答は的確に行えたか、など。</p> <p>(7) 自己管理能力: 自ら研究計画を立て、それを着実に遂行したか、など。</p> <p>(8) 平常点: 研究への取り組み態度、輪講・ディスカッションへの出席状況、ディスカッションへの参加、など。</p> <p>2. 発表内容による総合評価(70%)</p> <p>3. 出席率(30%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	全学年	前/後期	前期
授業コード	KJG1	必須/選択	選択	単位	4単位
科目	基本情報技術者試験対策(前期)				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	講義				
授業概要	(後期同様)基本情報技術者試験はITパスポート試験の内容と似ているところが多いものの、IT知識に対する理解度を高く求められる。試験を合格するため、必要とする基本知識を深く理解してもらうため、全体の知識を網羅する。そして、試験によく出題されるところに焦点を当てて詳細に解説していく。				
到達目標	表面上の知識だけでなく実践を踏まえることで確実に知識を定着させる。				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション、試験内容解説、N進数の扱い	授業の進み方 試験の特徴・内容構成・申請方法等 2進数、8進数、16進数、10進数との変換方法		
	2	2進数の四則演算と小数表現方法	足し算、引き算、掛け算、割り算とシフト演算 小数の表現方法と誤差の扱い		
	3	コンピュータの計算回路	論理演算、基本演算回路と加算器		
	4	デジタルデータの表し方	情報の表し方、アナログデータからデジタルデータへの変換方法		
	5	コンピュータの五大装置①	五大装置の関係とCPUの制御		
	6	コンピュータの五大装置②	CPUの演算と処理の性能		
	7	コンピュータの五大装置③	メモリの種類・特徴、メイン記憶装置、補助記憶装置		
	8	コンピュータの五大装置④	入力装置と出力装置		
	9	基本ソフトウェア①	OSの役割、ジョブ管理とタスク管理		
	10	基本ソフトウェア②	実記憶管理、仮想記憶管理、プログラムの性質		
	11	ファイル管理	ファイルの概念と保管場所の絶対パス・相対パス		
	12	データベース①	関係データベース、キー、正規化		
	13	データベース②	SQL、排他制御、障害管理		
	14	ネットワークの構成	インターネット、LAN、WAN、構成装置		
	15	ネットワーク上のデータ転送	データの誤り制御、TCP/IP		
	16	ネットワークサービス	WWW、メール、クラウド		
	17	セキュリティ①	情報セキュリティ、個人認証、アクセス管理		
	18	セキュリティ②	ウイルス対策、ネット上のインターネットの対策、暗号化技術、デジタル署名		
	19	システム開発手法	システムの開発手法		
	20	システム開発設計	業務モデル化、ユーザインタフェース、コード設計、モジュール分割、テスト		
	21	システム開発管理	プロジェクトマネジメント、システム監査		
	22	プログラム作り方①	プログラミング言語基礎		
	23	プログラム作り方②	アルゴリズム		
	24	プログラム作り方③	オブジェクト指向、擬似言語、UML		
	25	システム故障対策	故障した場合の対策		
	26	企業活動と市場分析	企業活動と組織構造、市場ポジション分析		
	27	企業関連する法規	労働、著作、経営に関する法律		
	28	経営戦略	業務改善と問題分析手法		
	29	財務会計	費用、利益、在庫管理、財務諸表		
	30	過去問題練習と解説	過去問題練習		
テキスト	きたみ りゅうじ, 2023.『キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者 令和06年』技術評論社.				
参考書	無し				
評価基準	授業内での理解度と出席率(100%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	全学年	前/後期	後期
授業コード	KJG2	必須/選択	選択	単位	4単位
科目	基本情報技術者試験対策(後期)				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	講義				
授業概要	(前期同様)基本情報技術者試験はITパスポート試験の内容と似ているところが多いものの、IT知識に対する理解度を高く求められる。試験を合格するため、必要とする基本知識を深く理解してもらうため、全体の知識を網羅する。そして、試験によく出題されるところに焦点を当てて詳細に解説していく。				
到達目標	表面上の知識だけでなく実践を踏まえることで確実に知識を定着させる。				
授業計画(60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション、試験内容解説、N進数の扱い	授業の進み方 試験の特徴・内容構成・申請方法等 2進数、8進数、16進数、10進数との変換方法		
	2	2進数の四則演算と小数表現方法	足し算、引き算、掛け算、割り算とシフト演算 小数の表現方法と誤差の扱い		
	3	コンピュータの計算回路	論理演算、基本演算回路と加算器		
	4	デジタルデータの表し方	情報の表し方、アナログデータからデジタルデータへの変換方法		
	5	コンピュータの五大装置①	五大装置の関係とCPUの制御		
	6	コンピュータの五大装置②	CPUの演算と処理の性能		
	7	コンピュータの五大装置③	メモリの種類・特徴、メイン記憶装置、補助記憶装置		
	8	コンピュータの五大装置④	入力装置と出力装置		
	9	基本ソフトウェア①	OSの役割、ジョブ管理とタスク管理		
	10	基本ソフトウェア②	実記憶管理、仮想記憶管理、プログラムの性質		
	11	ファイル管理	ファイルの概念と保管場所の絶対パス・相対パス		
	12	データベース①	関係データベース、キー、正規化		
	13	データベース②	SQL、排他制御、障害管理		
	14	ネットワークの構成	インターネット、LAN、WAN、構成装置		
	15	ネットワーク上のデータ転送	データの誤り制御、TCP/IP		
	16	ネットワークサービス	WWW、メール、クラウド		
	17	セキュリティ①	情報セキュリティ、個人認証、アクセス管理		
	18	セキュリティ②	ウイルス対策、ネット上のインターネットの対策、暗号化技術、デジタル署名		
	19	システム開発手法	システムの開発手法		
	20	システム開発設計	業務モデル化、ユーザインタフェース、コード設計、モジュール分割、テスト		
	21	システム開発管理	プロジェクトマネジメント、システム監査		
	22	プログラム作り方①	プログラミング言語基礎		
	23	プログラム作り方②	アルゴリズム		
	24	プログラム作り方③	オブジェクト指向、擬似言語、UML		
	25	システム故障対策	故障した場合の対策		
	26	企業活動と市場分析	企業活動と組織構造、市場ポジション分析		
	27	企業関連する法規	労働、著作、経営に関する法律		
	28	経営戦略	業務改善と問題分析手法		
	29	財務会計	費用、利益、在庫管理、財務諸表		
	30	過去問題練習と解説	過去問題練習		
テキスト	きたみ りゅうじ, 2023.『キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者 令和06年』技術評論社.				
参考書	無し				
評価基準	授業内での理解度と出席率(100%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	全学年	前/後期	前期
授業コード	ITP1	必須/選択	選択	単位	2単位
科目	ITパスポート試験対策				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	講義				
授業概要	(後期同様)IT業界に関わる技術、管理、経営の基礎知識を網羅的に学ぶ。試験を合格するため、よく出題されるところに焦点を当てて詳しく解説を行う。				
到達目標	表面上の知識だけでなく実践を踏まえることで確実に知識を定着させる。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション、試験内容解説、情報とは何か	授業の進み方 試験の特徴・内容構成・申請方法等 コンピュータと情報について解説		
	2	コンピュータの構成	コンピュータの五大装置		
	3	デジタルデータの表し方	情報の表し方、アナログデータからデジタルデータへの変換方法		
		ファイル管理	ファイルの概念と保管場所の絶対パス・相対パス		
	4	ハードデスク、OS、アプリケーション、表計算	ハードデスクのデータ保存方法、 OSとアプリケーション 表計算ソフトの使い方		
	5	データベース	関係データベース、キー、SQL、排他制御、障害管理		
	6	ネットワークの構成と送信方法	インターネット、LAN、WAN、構成装置、TCP/IP		
	7	ネットワーク上のサービス	WWW、メール、クラウド		
	8	セキュリティ	情報セキュリティ、個人認証、アクセス管理、ウイルス対策、ネット上のインターネットの対策、暗号化技術、デジタル署名		
	9	システム開発手法	システムの開発の流れ、設計仕方、テスト		
	10	システム開発管理	プロジェクトマネジメント、システム監査		
	11	プログラム作り方	プログラミング言語基礎、アルゴリズム、擬似言語		
	12	システム故障対策	故障した場合の対策		
	13	企業活動と関連法規	企業活動と組織構造、市場ポジション分析、労働・著作・経営に関する法律		
14	経営戦略と財務会計	業務改善と問題分析手法、費用・利益・在庫管理と財務諸表			
15	過去問題練習と解説	過去問題練習			
テキスト	きたみ りゅうじ, 2023.『キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 令和06年』技術評論社.				
参考書	無し				
評価基準	授業内での理解度と出席率(100%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	全学年	前/後期	後期
授業コード	ITP2	必須/選択	選択	単位	2単位
科目	ITパスポート試験対策				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	講義				
授業概要	(前期同様)IT業界に関わる技術、管理、経営の基礎知識を網羅的に学ぶ。試験を合格するため、よく出題されるところに焦点を当てて詳しく解説を行う。				
到達目標	表面上の知識だけでなく実践を踏まえることで確実に知識を定着させる。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション、試験内容解説、情報とは何か	授業の進み方 試験の特徴・内容構成・申請方法等 コンピュータと情報について解説		
	2	コンピュータの構成	コンピュータの五大装置		
	3	デジタルデータの表し方	情報の表し方、アナログデータからデジタルデータへの変換方法		
		ファイル管理	ファイルの概念と保管場所の絶対パス・相対パス		
	4	ハードディスク、OS、アプリケーション、表計算	ハードディスクのデータ保存方法、 OSとアプリケーション 表計算ソフトの使い方		
	5	データベース	関係データベース、キー、SQL、排他制御、障害管理		
	6	ネットワークの構成と送信方法	インターネット、LAN、WAN、構成装置、TCP/IP		
	7	ネットワーク上のサービス	WWW、メール、クラウド		
	8	セキュリティ	情報セキュリティ、個人認証、アクセス管理、ウイルス対策、ネット上のインターネットの対策、暗号化技術、デジタル署名		
	9	システム開発手法	システムの開発の流れ、設計仕方、テスト		
	10	システム開発管理	プロジェクトマネジメント、システム監査		
	11	プログラム作り方	プログラミング言語基礎、アルゴリズム、擬似言語		
	12	システム故障対策	故障した場合の対策		
	13	企業活動と関連法規	企業活動と組織構造、市場ポジション分析、労働・著作・経営に関する法律		
14	経営戦略と財務会計	業務改善と問題分析手法、費用・利益・在庫管理と財務諸表			
15	過去問題練習と解説	過去問題練習			
テキスト	きたみ りゅうじ, 2023.『キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 令和06年』技術評論社.				
参考書	無し				
評価基準	授業内での理解度と出席率(100%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	BC1	必須/選択	必須	単位	2単位
科目	ビジネスコミュニケーション I				
教員氏名	田橋 英樹				
授業の方法	アクティブラーニング形式でディスカッションやロールプレイを通して、社会人として人との関わり方と専門知識を学んでもらう。また、日本の学校教育の文化を理解しあい、教わり方も実践で伝えていく。生徒が自ら考え、自己表現し、感想や学習成果のフィードバックの機会を作る授業にする。				
授業概要	ビジネス社会で生きていくために必要とされる様々な専門知識がある中で人に関わる一番大切とされているのがコミュニケーションの基礎知識とコミュニケーション能力。主に職場での効果的なコミュニケーションはチームワーク、リーダーシップ、問題解決能力などに大きく影響を与えます。またビジネス環境での礼儀の正しさや適切な言葉遣い、非言語の重要性を高めることで、職場でのチーム連携が円滑になりプロジェクトの成功にも貢献します。延いては、クライアントや顧客との適切なコミュニケーションスキルを持つことで顧客ニーズを理解し要求に応える力をつけます。総じて、コミュニケーション授業は生徒たちがビジネス社会で成功し、プロフェッショナルとして能力を高めるために必要不可欠なスキルと心を養成する重要な役割を果たします。				
到達目標	日本のビジネス社会を中心としたコミュニケーション基礎を身につけ、生徒一人ひとりがグローバル化した社会でコミュニケーション力を発揮し、就職活動や社会活動に積極的に参加し自信をつけ、成功と幸せの基盤を築いてもらう。最終目標は社会に出た際にこの学校で学べて良かったと誰しもが言ってくれるようにする。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	自己紹介とコミュニケーション	ビジネス社会だけではなく、人間力向上のためにもコミュニケーションの基礎を中心に他者理解・自己表現・相互理解・非言語を学ぶ		
	2	ビジネス社会におけるコミュニケーションの重要性			
	3	聴く姿勢1基礎(メラビアンの法則)			
	4	コミュニケーション能力と聴き方2			
	5	コミュニケーションとは			
	6	コミュニケーションの基本原則			
	7	コミュニケーション力チェック			
	8	コミュニケーションスキル			
	9	非言語・9つの表現要素			
	10	職場でのコミュニケーション基本			
	11	職場でのコミュニケーション応用			
	12	目標の立て方			
	13	感情のコントロール1			
	14	感情のコントロール2			
	15	前期まとめ			
	16	期末試験			
テキスト	印刷物を配布する				
参考書	印刷物を配布する				
評価基準	1.授業態度(60%) 2.期末試験(20%) 3.出席率(20%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	BC2	必須/選択	必須	単位	2単位
科目	ビジネスコミュニケーションⅡ(GCBⅠ)				
教員氏名	田橋 英樹				
授業の方法	アクティブラーニング形式でディスカッションやロールプレイを通して、社会人として人との関わり方と専門知識を学んでもらう。また、日本の学校教育の文化を理解しあい、教わり方も実践で伝えていく。生徒が自ら考え、自己表現し、感想や学習成果のフィードバックの機会を作る授業にする。				
授業概要	ビジネス社会で生きていくために必要とされる様々な専門知識がある中で人に関わる一番大切とされているのがコミュニケーションの基礎知識とコミュニケーション能力。主に職場での効果的なコミュニケーションはチームワーク、リーダーシップ、問題解決能力などに大きく影響を与えます。またビジネス環境での礼儀の正しさや適切な言葉遣い、非言語の重要性を高めることで、職場でのチーム連携が円滑になりプロジェクトの成功にも貢献します。延いては、クライアントや顧客との適切なコミュニケーションスキルを持つことで顧客ニーズを理解し要求に応える力をつけます。総じて、コミュニケーション授業は生徒たちがビジネス社会で成功し、プロフェッショナルとして能力を高めるために必要不可欠なスキルと心を養成する重要な役割を果たします。				
到達目標	日本のビジネス社会を中心としたコミュニケーション基礎を身につけ、生徒一人ひとりがグローバル化した社会でコミュニケーション力を発揮し、就職活動や社会活動に積極的に参加し自信をつけ、成功と幸せの基盤を築いてもらう。最終目標は社会に出た際にこの学校で学べて良かったと誰しもが言ってくれるようにする				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	非言語・9つの表現要素	ビジネスにおけるコミュニケーションについて、その前段階である就職活動に役立つ情報提供・自己分析ワークも含めて学ぶ		
	2	相手の心の汲み取り方1			
	3	相手の心の汲み取り方2			
	4	傾聴1			
	5	傾聴2			
	6	傾聴3			
	7	アイコンタクトトレーニング1			
	8	アイコンタクトトレーニング2			
	9	脳と体と心の使い方			
	10	自分の持ち味			
	11	他己紹介			
	12	価値観と在り方			
	13	キャリアビジョン(目標設定)1			
	14	キャリアビジョン(目標設定)2			
	15	後期まとめ			
16	期末試験 自己表現1分				
テキスト	印刷物を配布する				
参考書	印刷物を配布する				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業態度(20%)と自己表現スピーチ(10%)出席率(10%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	BC3	必須/選択	必須	単位	1単位
科目	ビジネスコミュニケーションⅢ(GCB II)				
教員氏名	平田 真智子				
授業の方法	<p>講義の中で、座学と並行して、アクティラーニングを通して、インプットとアウトプットを繰り返しながら理解を深めることができる。</p> <p>専門知識を学ぶだけでなく、実践の場での応用を考えることができるようにする。</p> <p>講義内で学んだことを、レポートにして、理解度を計りながら反復演習を進める。</p> <p>自己のレポートを振り返る機会を作るためにも、各回各人にフィードバックを行い、モチベーションアップや自己効力感を高める内容とする。</p>				
授業概要	<p>人間が社会生活を送る上でコミュニケーションは必要不可欠であり、新卒採用で企業側が求める能力として「コミュニケーション能力」は16年連続でトップに挙げられている。IT関連の専門職であっても、円滑なプロジェクト推進のためにコミュニケーション能力は大変重要視されている。また、コロナ禍においてテレワークも急拡大しており、対面で「聞く」「話す」以外のコミュニケーションがさらに重要になっていくことが考えられる。</p> <p>本講座では、ビジネス社会で必要不可欠なコミュニケーションについて、日本社会の文化についての知識も交えながら情報提供する。自分自身の頭で考え、意見交換し、トレーニングをし、多様性を受け入れながら知見を深めていくことができるような講座をおこなう。</p>				
到達目標	<p>ビジネスコミュニケーションの基礎を踏まえた応用編。</p> <p>日本人・留学生ともに、異なる文化背景を持つ他者とコミュニケーションをとることに慣れる。</p> <p>多様な価値観を理解し、ダイバーシティの時代を踏まえたコミュニケーションの基本を理解することができる。</p> <p>自身の考えを言語化し、自分の言葉で他者に伝え、他者の意見も受け入れる(受け止める)ことを学ぶ。</p> <p>BC2の次の段階として、就職活動・実務における諸問題にどのように対応するか、ケーススタディを通し、読解力・問題解決力・仲間とのコミュニケーション力・人前で発言する力を身につける。</p> <p>社会人としてビジネスコミュニケーションを学ぶことで、その先には自身の生涯を見据えた大切なスキルであることを理解することができる。</p>				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ビジネスコミュニケーションについて(オリエンテーション)	<p>就職活動・実務での諸問題をケーススタディとして提示し、それを読み、理解し、解決策について個人で考える→グループで話し合い、コンセンサスを取り、代表者が発表する→講師からコメント、妥当解を示し、各ケースの周辺情報の提供。これを3回に分け、十分な時間をとっておこなう。</p>		
	2	社会人として必要なこと			
	3	ビジネスコミュニケーションにおける必要能力と自己理解			
	4	コミュニケーションにおける知識の発展を学ぶ・ケーススタディ①			
	5	同上・ケーススタディ②			
	6	同上・ケーススタディ③			
	7	コミュニケーションにおけるストロークを学ぶ・ケーススタディ①			
	8	同上・ケーススタディ②			
	9	同上・ケーススタディ③			
	10	コミュニケーションの自分の傾向をみる・エゴグラムで自己理解①			
	11	同上・自己理解②			
	12	同上・自己理解②			
	13	電話のマナー・ケーススタディ			
	14	メールのマナー・ケーススタディ			
	15	前期のまとめ・理解を深める			
16	期末試験				
テキスト	印刷物を配布する				
参考書	印刷物を配布する				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	BMN	必須/選択	必須	単位	1単位
科目	ビジネスマナー				
教員氏名	平田 真智子				
授業の方法	<p>講義の中で、座学と並行して、アクティラーニングを通して、インプットとアウトプットを繰り返しながら理解を深めることができる。</p> <p>専門知識を学ぶだけでなく、実践の場での応用を考えることができるようにする。</p> <p>講義内で学んだことを、レポートにして、理解度を計りながら反復演習を進める。</p> <p>自己のレポートを振り返る機会を作るためにも、各回各人にフィードバックを行い、モチベーションアップや自己効力感を高める内容とする。</p>				
授業概要	<p>①授業のテーマ マナーとは何かということ認識し、ビジネスパーソンに不可欠な状況に応じたマナーを身につける</p> <p>②授業の内容 大きく分けて以下の3つについて講義(関連動画も含む)し、レポート作成やマナーチェックを課していく。 ・来年社会人として一歩踏み出すみなさんへ心構え ・正社員として働くからには ・外国のビジネスマナー</p> <p>③履修するみなさんは2年次の学生であると共に、就職活動生でもある。社会人の第一歩として“襟を正す”意味を含め、男女ともリクルートスーツ姿での参加が望ましい。勿論、平常点にも加味していく。</p> <p>④事後展開学修実際の就職活動を通じ、特に自身の社会人としてのマナーの足りなさを痛感した場合は、これまで授業で学習したことを再度見直し、今後の活動の糧にしていくこと。</p>				
到達目標	心構えや行動、身だしなみ、考え方・受け取り方、話し方・聞き方など、“なぜそうしなければならないのか”を理解し、各場面に応じたマナーを心掛け、実践できる。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	来年社会人として一歩踏み出すみなさんへ心構え 1	遅刻、欠勤、早退に気を付けよう!		
	2	来年社会人として一歩踏み出すみなさんへ心構え 2	働く目的を明確に		
	3	来年社会人として一歩踏み出すみなさんへ心構え 3	グローバルIT社会と共存していくために		
	4	正社員として働くからには 1	非正規社員(アルバイト、パートタイマー)との違いを明確に		
	5	正社員として働くからには 2	報告、連絡、相談の重要性		
	6	正社員として働くからには 3	TO-DO、タスクをこまめにチェック		
	7	正社員として働くからには 4	スケジュールの管理		
	8	正社員として働くからには 5	会議でのマナー		
	9	正社員として働くからには 6	出張(日帰り・宿泊)で気を付けたいこと		
	10	正社員として働くからには 7	研修や講習で自身のスキルをアップ		
	11	外国のビジネスマナーを理解する1	中国、ベトナム、スリランカ、ネパール、ウズベキスタン、モンゴル、ブラジル、ミャンマー 他当校在籍留学生出身国のビジネスマナー		
	12	外国のビジネスマナーを理解する2			
	13	外国のビジネスマナーを理解する3			
	14	外国のビジネスマナーを理解する4			
	15	マナーチェック	各場面に応じたマナーの体得		
16	期末試験	第1～15講で配布した資料を確認しておくこと			
教科書	印刷物を配布する				
参考書	印刷物を配布する				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	BEN	必須/選択	必須	単位	2単位
科目	ビジネス英語				
教員氏名	王 思敏				
授業の方法	講義、演習				
授業概要	IT技術者がビジネス場面で必要とされる、英語力語彙力、リスニング力、リーディング力、スピーキング力、ライティング力の向上を目指す。授業には積極的に取り組み、復習(授業内容の確認・音読)も行うこと				
到達目標	IT技術者がビジネス場面で必要とされる、英語力(語彙力、リスニング力、リーディング力、スピーキング力、ライティング力)の向上を目指す。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	授業の進め方、自己紹介	オリエンテーション、英語で自己紹介する		
	2	オフィス機器の操作	Wi-Fiのセットアップ		
	3	オフィス機器の操作	プリンターのセットアップ		
	4	PC作業の基本	キーボードの操作		
	5	PC作業の基本	操作の指示		
	6	PC作業の基本	トラブル対処		
	7	オフィスソフトの操作	文書作成		
	8	オフィスソフトの操作	文書作成		
	9	オフィスソフトの操作	表計算		
	10	ウェブ制作	ウェブページの作成		
	11	ウェブ制作	ウェブページの作成		
	12	Eメール	メールの設定		
	13	Eメール	ビジネスEメールの書き方		
	14	SNS	SNS上で使われる言葉		
	15	まとめと試験対策			
16	期末試験				
テキスト	プリントを配布				
参考書	長澤大輔、ジョン・レイナー『IT・デジタルワーカーのための英会話』ペレ出版、2016年 行時潔他『First Time Working Abroad』松柏社、2020年 その他、適宜授業時に紹介する				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内課題と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	BKB	必須/選択	必修	単位	2単位
科目	簿記基礎				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①授業のテーマ 複式簿記について学習する。簿記上の取引を、借方と貸方に分けて記帳する技術を身につける。複式簿記の基本原則、簿記一巡の手続を学習し、簿記・会計学の基本的な事項を理解することを目的とする。</p> <p>②授業の内容 あらゆる組織が運営するために常に考えなければならない重要な問題は資金である。この授業においては、組織の日常の経済活動中において、様々な経理・会計に関する概念を解説しながら、お金がどのように流れているか、また貸借対照表や損益計算書等の財務諸表をどのように作成し、分析するかについて、主に現行の複式簿記の仕組みを学習していく。</p>				
到達目標	簿記の構造理解および決算書類の作成ができる日商簿記検定3級に当たる能力を達することを授業の目標とする。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション 簿記の意義と基礎諸概念	授業の進み方と評価し方 簿記の意義の諸基本概念		
	2	貸借対照表 損益計算書	貸借対照表の意義と仕組み 損益計算書の意義と仕組み		
	3	取引と勘定記入 仕訳帳と元帳	取引の概念と勘定科目 仕分け方法と仕訳帳と元帳の目的		
	4	試算表と精算表 決算	試算表と精算表の目的 決算の意義		
	5	現金預金	現金に関連する勘定科目		
	6	商品売買	商品売買に関連する勘定科目		
	7	売掛金と買掛金	掛け金処理に関連する勘定科目		
	8	その他の債権債務取引	債権債務の処理 債権と債務に関連する勘定科目		
	9	受取手形と支払手形	手形に関する勘定科目		
	10	貸倒れ 有形固定資産	貸倒の基本概念と関連の勘定科目 固定資産に関する勘定科目		
	11	伝票 資本	伝票の仕組み 資本の概念		
	12	税金	税金に関連する勘定科目		
	13	収益と費用	収益と費用の勘定科目		
	14	8桁精算表 財務諸表	精算表の作成 財務諸表の概念とその構成		
	15	復習			
16	期末試験				
テキスト	駒井伸俊(2023)『豊富な仕訳例で世界一使いやすい！勘定科目と仕訳の事典』第2版, 秀和システム.				
参考書	伊藤龍峰, 工藤栄一郎, 青木康一, 仲尾次洋子, 坂根純輝, 東幸代, 原口健太郎(2021)『基本簿記原理』第2版, 中央経済社.				
評価基準	1.授業内での取り組み度(40%) 2.出席率(30%) 3.期末試験(30%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	CM1	必須/選択	必須	単位	2単位
科目	一般教養 I				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	講義、一問一答、レポート				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職試験の中の一般常識で出題頻度が多い「時事問題」に焦点を当てる。特に国際情勢では、当校に在籍する留学生の出身国についても取り上げ、異文化、多文化共生等に関する理解を深めていく。</p> <p>②授業の内容 大きく分けて以下のジャンルについて講義(関連動画も含む)し、レポート、一問一答を課していく。 ・社会問題 ・政治経済 ・国際情勢</p> <p>③事前準備学修 ・自分にとって初めて聞く用語に出くわしたら、直ぐにインターネットや事典等で調べる ・調べた内容は、その日のうちにノート等を書いてまとめる ・普段から、ニュースを視聴したり、新聞に目を通す習慣をつけておく</p> <p>④事後展開学修 ・一問一答で間違った所は、マーカーや付せんなどでチェックし、正解するまでくり返し覚える ・学習が済んだ箇所でも、確認の意味でしっかり見直す</p>				
到達目標	<p>・例えば、1年前のニュースについて質問、出題されることを想定し、直ぐに答えられるようにする。</p> <p>・自分の考えや意見を、自分の言葉でアウトプットできるようになる。</p>				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	グローバル社会とは？	異文化理解、多文化共生		
	2	在留外国人の取り巻く環境	外国人の在留資格、在留・就労の実態		
	3	時事問題 ～社会問題①～	2020年の社会問題を振り返る		
	4	時事問題 ～社会問題②～	2021年の社会問題を振り返る		
	5	時事問題 ～社会問題③～	2022年の社会問題を振り返る		
	6	時事問題 ～政治経済①～	2020年の政治経済を振り返る		
	7	時事問題 ～政治経済②～	2021年の政治経済を振り返る		
	8	時事問題 ～政治経済③～	2022年の政治経済を振り返る		
	9	時事問題 ～国際情勢①～	2020年の国際情勢を振り返る		
	10	時事問題 ～国際情勢②～	2021年の国際情勢を振り返る		
	11	時事問題 ～国際情勢③～	2022年の国際情勢を振り返る		
	12	課題作文①	外国人留学生・労働者から見た日本の印象		
	13	前時の課題作文のフィードバック①	添削結果を基にした課題作文を書く上での注意点		
	14	課題作文②	在留外国人の日本語力・日本での生活ぶりについて		
	15	前時のレポートのフィードバック②	添削結果を基にした課題作文を書く上での注意点		
16	期末試験	第1～15講で配布した資料を確認しておくこと			
テキスト	使用せず。随時資料を配布する。				
参考書	必要があればその都度提示する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(50%) 2.授業内で課す一問一答とレポート(40%) 3.受講態度を含む出席状況(10%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	CM2	必須/選択	必須	単位	2単位
科目	一般教養Ⅱ				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	講義、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職試験で出題されやすい最新時事問題について学習し、2024年度の就職活動に備える</p> <p>②授業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 前時に指定した箇所を出題範囲とし、授業の最初の15分を使って行う ・解説 小テストの答え合わせとフィードバック <p>③事前準備学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって初めて聞く用語に出くわしたら、直ぐにインターネットや事典等で調べる ・調べた内容は、その日のうちにノート等を書いてまとめる ・時間のある時には、次回の確認小テストの勉強をする <p>④事後展開学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認小テストで間違った所は、マーカーや付せんなどでチェックし、正解するまでくり返し覚える ・学習が済んだ箇所でも、確認の意味でしっかり見直す 				
到達目標	就職試験で頻繁に問われる最新時事問題の各分野を、一問一答形式で答えられるようにする				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	国内政治・経済(1)	歴代首相、憲法、法令		
	2	国内政治・経済(2)	制度改革		
	3	国内政治・経済(3)	経済論、経済史、経済協定		
	4	社会問題(1)	年金、少子高齢化		
	5	社会問題(2)	教育		
	6	国際問題(1)	常任理事国、国連安全保障理事会		
	7	国際問題(2)	領土問題		
	8	環境問題(1)	公害		
	9	環境問題(2)	新エネルギー		
	10	世界遺産(1)	文化遺産、自然遺産		
	11	世界遺産(2)	複合遺産		
	12	時事英語(1)	国際略語		
	13	時事英語(2)	メディア英語		
	14	ノーベル賞(1)	文学賞、平和賞、経済学賞		
	15	ノーベル賞(2)	物理学賞、化学賞、医学・生理学賞		
16	期末試験				
テキスト	使用せず。随時資料を配布する。				
参考書	必要があればその都度提示する。				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	1KT	必須/選択	必修	単位	-
科目	基礎体力				
教員氏名	加藤 大輝				
授業の方法	講義、実技指導				
授業概要	講義を通して体力の要素を理解し、実技指導を通して体力を鍛える方法を取得する。				
到達目標	体力の要素についての理解を深め、身体要素と精神要素を鍛える方法を自分自身で取得できること。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	体力の要素	体力の要素の分類について解説します。		
	2	精神的要素Ⅰ	行動体力の意志・判断・意欲について解説する。		
	3	精神的要素Ⅱ	防衛体力の精神的ストレスに対する抵抗力について解説する。		
	4	身体的要素Ⅰ	行動体力の形態内容で体格について解説する。		
	5	身体的要素Ⅱ	行動体力の機能内容で行動を起こす力・行動を持続する力・行動を調節する力について解説する。		
	6	身体的要素Ⅲ	防衛体力の構造内容で器官・組織の構造について解説する。		
	7	身体的要素Ⅳ	防衛体力の機能内容で温度調節・免疫・身体的ストレスに対する抵抗力について解説する。		
	8	行動を起こす力の筋力	筋力・背筋力などの付け方について実技指導する。		
	9	行動を起こす力の瞬発力	瞬発力の向上方法について実技指導する。		
	10	行動を持続する力の筋持久力	筋持久力について実技指導する。		
	11	行動を持続する力の全身持久力	全身持久力について実技指導する。		
	12	行動を調節する力の敏捷性	敏捷性について実技指導する。		
	13	行動を調節する力の平衡性	平衡性について実技指導する。		
	14	行動を調節する力の巧緻性	巧緻性について実技指導する。		
15	行動を調節する力の柔軟性	柔軟性について実技指導する。			
テキスト	独自に準備				
参考書	独自に準備				
評価基準	1.授業参加度による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	2KT	必須/選択	必修	単位	2単位
科目	基礎体力				
教員氏名	加藤 大輝				
授業の方法	講義、実技指導				
授業概要	講義と実技指導を通して体力を鍛えて行くことを目指す。授業は基本校舎内を利用しますが、まれに市運営の施設を利用し、団体競技を実施する。				
到達目標	体力の要素についての理解を深め、実技を通して身体要素を鍛える方法を自分自身で取得できること。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	体力測定	学生の体力を測定し、現状を確認する		
	2	ラジオ体操 I	ラジオ体操の前半について、正しくやり方を実技指導する。		
	3	ラジオ体操 II	ラジオ体操の後半について、正しくやり方を実技指導する。		
	4	実技 I	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこしなど実施する。		
	5	実技 II	ラジオ体操、懸垂腕屈伸、全身反応時間、反復横とびなど実施する。		
	6	実技 III	ラジオ体操、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施		
	7	体育館での実技 I	サッカー、バレーボールなどの競技を実施する。		
	8	実技 IV	ラジオ体操、全身反応時間、反復横とび、閉眼片足立ち、座位体前屈など実施する。		
	9	実技 V	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	10	実技 VI	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこし、懸垂腕屈伸、伏臥上体そらしなど実施する。		
	11	体育館での実技 II	バスケットボール、キャッチボールなどの競技を実施する。		
	12	実技 VII	ラジオ体操、全身反応時間、反復横とび、閉眼片足立ち、座位体前屈など実施する。		
	13	実技 VIII	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	14	実技 IX	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこし、懸垂腕屈伸、伏臥上体そらしなど実施する。		
15	体育館での実技 III	バスケットボール、キャッチボールなどの競技を実施する。			
テキスト	独自に準備				
参考書	独自に準備				
評価基準	1.授業参加度による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出、体力測定を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	SJI	必須/選択	必修	単位	2単位
科目	日本の産業構造				
教員氏名	加賀 博				
授業の方法	講義で必要な知識・情報提供によって、理解を深め、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなど講師と学生同士が共同し、双方向的にかつ実践的に学習する。				
授業概要	<p>①授業の内容 今日、日本の産業社会はグローバル化の必要により国内外ともに競争が激化している。業界内の変化も多様化し新しい業種、ビジネスモデルが創造され、こうしたグローバル時代の職業、業界の内容を具体的にわかりやすく実践的研究方法を指導し、進路形成に役立たせる。</p> <p>②準備学習等の指示 次回講義する教科書の範囲を事前に確認し、最近のニュースを経済新聞、経済雑誌などを利用し、要約しておく。事前確認は、おおよそ30分程度要する。 また、授業内容を再学習し、授業内容を徹底理解する。また、学んだことを実生活で意識して過ごし、活かすようにする。事後確認は、おおよそ30分程度の時間を要する。</p>				
到達目標	本授業は、業界・業種別のビジネスモデルの内容とその実践的研究方法を具体的にわかりやすく解説・指導し、学生の進路形成に役立たせることを目標とする。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ		概要/キーワード	
	1	日本経済を取りまく環境、社会インフラ、石油、電力業界の役割と特性		<p>【全授業共通】</p> <p>①アクティブラーニングとして、スマホを活用し、自己研究したことを授業毎に、指示されたフォーマットに書き込む。</p> <p>②「自己チェックレポート」により、授業に対する授業傾注度(授業で学んだこと、気付いたこと、修得したことなど)を簡潔にまとめ、自己評価し、総合コメントをする。</p>	
	2	プラント、不動産、住宅、鉄道、陸運業界の役割と特性			
	3	航空業界、海運業界、倉庫物流、通信・インターネット業界の役割と特性			
	4	IT、ソフトウェア、鉄鋼・非鉄金属、化学、ガラス・セメント業界の役割と特性			
	5	ゴムタイヤ・紙・パルプ、繊維、コンピュータ・電子部品、OA機器・家電業界の役割と特性			
	6	工作機械、自動車、造船・重機、化粧品・トイレット業界の役割と特性			
	7	食品・飲料、製薬、作ったものを我々に営業販売する流通小売、スーパー、コンビニ業界の役割と特性			
	8	アパレル、専門量販店、ディスカウント、通信販売、我々の生活を便利で豊かにするサービス業界の役割と特性			
	9	フードサービス、旅行、レジャー、ホテル業界の役割と特性			
	10	マスコミ、出版、放送、広告業界の役割と特性			
	11	印刷、商社、シルバービジネス、教育業界の役割と特性			
	12	人材ビジネス、コンサルティング、ゲーム、産業・社会に必要なお金の運用に関する金融業界の役割と特性			
	13	銀行、証券、保険、クレジット業界の役割と特性			
	14	消費者金融、リース・レンタルの役割と特性、日本の経済・産業を支える政治構造、三権分立、民主党			
	15	国会のしくみ、内閣と省庁のしくみ、自分に興味を持った産業のまとめ、発表、グループワーク			
	16	期末試験			
テキスト	加賀博(2022)『学生生活とファーストキャリア(就職に)重要なキャンパス&ファーストキャリアデザイン』日本生産性本部生産性労働情報センター				
参考書	無し				
評価基準	1.毎授業に作成する自己チェックレポート課題と取り組み(40%) 2.期末に行う筆記試験(60%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	SJC	必須/選択	必修	単位	2単位
科目	日本の企業構造				
教員氏名	加賀 博				
授業の方法	講義で必要な知識・情報提供によって、理解を深め、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなど講師と学生同士が共同し、双方向的にかつ実践的に学習する。				
授業概要	<p>①授業の内容 今日、日本の産業社会はグローバル化の必要により国内外ともに競争が激化、多様化している。こうしたグローバル時代の企業の組織及び仕事の内容を具体的にわかりやすく実践的研究方法を指導し、進路形成に役立たせる。</p> <p>②準備学習等の指示 次回講義する教科書の範囲を事前に確認し、最近のニュースを経済新聞、経済雑誌などを利用し、要約しておく。事前確認は、おおよそ30分程度要する。 また、授業内容を教科書で再学習し、授業内容を徹底理解する。また、学んだことを実生活で意識して過ごし、活かすようにする。事後確認は、おおよそ30分程度の時間を要する。</p>				
到達目標	本授業は、日本の代表企業の組織及び仕事内容また、それに必要とされる資格などの内容とその実践的研究方法を具体的にわかりやすく解説・指導し、学生の進路形成に役立たせることを目標とする。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	日本の代表企業の組織イメージ	<p>【全授業共通】</p> <p>①アクティブラーニングとして、スマホを活用し、自己研究したことを授業毎に、指示されたフォーマットに書き込む。</p> <p>②「自己チェックレポート」により、授業に対する授業傾注度(授業で学んだこと、気付いたこと、修得したことなど)を簡潔にまとめ、自己評価し、総合コメントをする。</p>		
	2	経営理念の重要性と内容			
	3	株主総会の役割と責任			
	4	取締役会の役割と責任及び代表取締役の重要性及び役割と責任			
	5	経営企画部の仕事内容			
	6	財務部の仕事内容			
	7	経理部の仕事内容			
	8	総務人事部の仕事内容			
	9	情報システム部の仕事内容			
	10	製造部の仕事内容			
	11	研究開発部の仕事内容			
	12	仕入部の仕事内容			
	13	店舗運営部の仕事内容			
	14	営業販売部の仕事内容、			
	15	従業員として働くための基本(権利と義務)			
	16	期末試験			
テキスト	加賀博(2022)『学生生活とファーストキャリア(就職に)重要なキャンパス&ファーストキャリアデザイン』日本生産性本部生産性労働情報センター				
参考書	その都度、経済ニュースなど				
評価基準	1.毎授業に作成する自己チェックレポート課題と取り組み(40%) 2.期末に行う筆記試験(60%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	SJP	必須/選択	必修	単位	2
科目	日本の代表企業と仕事構造				
教員氏名	仲井 圭二				
授業の方法	担当教員による解説に加えて、個人演習、グループ演習、宿題を通じて、学生の皆さんのキャリアデザイン構築の一助にする。				
授業概要	今日、産業社会の急速なグローバル化の進展により、国内外ともに競争が激化している。業界内の変化も多様化し、新しい業界、業種、企業が創造されている。こうしたグローバル時代における代表企業とその仕事内容について解説し、就職活動に役立たせる。				
到達目標	本授業では、業界・業種別の代表企業及び仕事内容を分かり易く解説し、学生の就職活動に役立たせることを目標とする。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	日本経済を取り巻く変化①～④	<ul style="list-style-type: none"> ●グローバルズムに取り組む企業例 ●ボーダレス化に取り組む企業例 ●IT化に取り組む企業例 ●SDGsに取り組む企業例 		
	2				
	3				
	4				
	5	グローバル社会で注目される職種①～⑤	システム、金融、小売り、広告・マスコミ、サービス (企業紹介を含む)		
	6				
	7				
	8				
	9	ビジネス資格①～⑥	<ul style="list-style-type: none"> ●旅行・ホテル・観光・レジャー ●音楽・アニメ・芸術 ●芸能・マスコミ ●ファッション・デザイン ●ゲーム・コンピューター ●企業・組織の事務 (合格体験談を含む) 		
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
16	期末試験	第1～15講で得た成果を自分の言葉で表現する。			
テキスト	学生生活とファーストキャリア(就職)に重要な「キャンパス&ファーストキャリアデザイン」 著者:加賀 博(公益財団法人 日本生産性本部 発行)				
参考書	必要があればその都度提示する。				
評価基準	1.毎授業に提示する課題に対するレポート(50%) 2.期末に行う筆記試験(50%) 上記を総合的に加味し、科目担当者が評価する。				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	CRD	必須/選択	必修	単位	2
科目	キャリアデザインと就職方法				
教員氏名	仲井 圭二				
授業の方法	担当教員による解説に加えて、個人演習、グループ演習、宿題を通じて、学生の皆さんのキャリアデザイン構築の一助にする。				
授業概要	企業が求めているのは、挑戦・自己管理できる人材である。挑戦の過程で、知識、技術を身に付けるとともに、その結果から教訓を学んで次に活かすことができる人材である。本授業は、単なる就職の方法を教えるのではなく、社会で生きて行くとはどういうことか、そのためには何をしたら良いのかを学生の皆さんに考えてもらう時間とする。				
到達目標	学生生活における目的を明確にし、自己の能力や価値観を認識した上で、自己管理方法を知り、将来のキャリア設計を行う。そして、それらに基づいて、就職対策計画を立て、実践する。				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オリエンテーション	これからの授業内容について説明。自己紹介を通じて他者に自分を知ってもらう練習。		
	2	キャリアとは何か？	勉強する、働く、遊ぶ、生きることの関係。		
	3	就職活動の概要	就職活動で行うこと。		
	4	自分を知る(その1)	価値観、物事の捉え方は一人一人違う。		
	5	自分を知る(その2)	エントリーシートの書き方。		
	6	SPI対策(その1)	SPIの問題を解く。		
	7	社会を知る、世の中の仕事を知る	世の中にはどのような仕事があるのかを知る。		
	8	働くことと生きること	ワークライフバランス、働き方と働きがい。		
	9	優良企業の見つけ方	自分にとっての「優良」な企業の見つけ方。		
	10	SPI対策(その2)	SPIの問題を解く。		
	11	職場で安心して働くために	コンプライアンス、ハラスメント、心理的安全性。		
	12	面接対策	面接対策。		
	13	自分に適した企業の選び方と就職活動①	第1～12講で得た結果を基に自分に適した企業を選び、行動する。		
	14	自分に適した企業の選び方と就職活動②			
	15	自分に適した企業の選び方と就職活動③			
16	期末試験	第1～15講で得た成果を自分の言葉で表現する。			
テキスト	学生生活とファーストキャリア(就職)に重要な「キャンパス&ファーストキャリアデザイン」 著者:加賀 博(公益財団法人 日本生産性本部 発行)				
参考書	必要があればその都度提示する。				
評価基準	1.毎授業に提示する課題に対するレポート(50%) 2.期末に行う筆記試験(50%) 上記を総合的に加味し、科目担当者が評価する。				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	1SJ1	必須/選択	必須	単位	-
科目	就職実務I				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職についての理解を深め、就職に向けての諸準備を整える。</p> <p>②授業の内容 就職活動前の準備 職業人意識・ビジネス・マナー等、企業から求められる諸点への理解を深める。 ビジネス能力検定ジョブパス演習によりビジネス能力向上を図る。 提出書類対策 自己分析、自己PR 企業・業界・職種研究を行い、志望動機の作成 筆記試験対策 時事問題、経済用語、一般常識問題、作文・小論文対策</p> <p>③事前準備学修 特に必要としない</p> <p>④事後展開学修 随時、振り返りの小テストを実施し、履修度合の確認を行う。 期末テストにより全体的な履修度合の確認を行う。</p>				
到達目標	①授業の到達目標は、実際の就職準備(企業研究、業種研究、エントリーシート作成、履歴書作成)を進め、企業訪問、入社試験に臨めるようになる。				
授業計画(15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	職業人意識について(1)	社会人、企業人への準備・心構え		
	2	職業人意識について(2)	企業側が求める諸点		
	3	職業人意識について(3)	働くことの意義		
	4	ビジネス・マナー(1)	社会人・企業人の基礎		
	5	ビジネス・マナー(2)	敬語の使い方		
	6	ビジネス・マナー(3)	社会常識		
	7	ビジネス能力検定ジョブパス(1)	B検チャレンジ、公式試験問題集		
	8	ビジネス能力検定ジョブパス(2)			
	9	ビジネス能力検定ジョブパス(3)			
	10	自己分析(1)	エニアグラムにより自己分析		
	11	自己分析(2)	お互いの自己分析評価ワークショップ		
	12	自己分析(3)	自分の長所・短所、他人からの評価		
	13	自己分析(4)	自己PR、プレゼンテーション訓練		
	14	企業・業界・職種研究(1)	どんな会社、どんな職種があるか確認		
	15	企業・業界・職種研究(2)			
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	<p>「こう動く！就職活動オールガイド'20年版」成美堂出版、価格1,100円＋税金</p> <p>「専門学校生のための就職内定基本テキスト」</p> <p>日本能力協会マネジメントセンター 価格1,200円＋税金</p> <p>「ジョブパス能力検定ジョブパス」</p> <p>日本能力協会マネジメントセンター 価格1,300円＋税金</p>				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	2SJ1	必須/選択	必須	単位	1単位
科目	就職実務I				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職についての理解を深め、就職に向けての諸準備を整える。</p> <p>②授業の内容 就職活動前の準備 職業人意識・ビジネス・マナー等、企業から求められる諸点への理解を深める。 ビジネス能力検定ジョブパス演習によりビジネス能力向上を図る。 提出書類対策 自己分析、自己PR 企業・業界・職種研究を行い、志望動機の作成 筆記試験対策 時事問題、経済用語、一般常識問題、作文・小論文対策</p> <p>③事前準備学修 特に必要としない</p> <p>④事後展開学修 随時、振り返りの小テストを実施し、履修度合の確認を行う。 期末テストにより全体的な履修度合の確認を行う。</p>				
到達目標	授業の到達目標は、実際の就職準備(企業研究、業種研究、エントリーシート作成、履歴書作成)を進め、企業訪問、入社試験に臨めるようになる。				
授業計画(15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	経済新聞購読(1)	社会・経済への理解、一般常識対策		
	2	経済新聞購読(2)			
	3	CSR研究	企業の社会的責任		
	4	SDGsへの理解(1)	企業の対処すべき課題		
	5	SDGsへの理解(2)			
	6	SDGsへの理解(3)			
	7	時事問題(1)	時事問題への理解		
	8	時事問題(2)			
	9	コミュニケーション能力養成(1)	テーマを決めてプレゼンテーション訓練		
	10	コミュニケーション能力養成(2)			
	11	コミュニケーション能力養成(1)	PREP法訓練		
	12	コミュニケーション能力養成(2)			
	13	エントリーシート作成	志望動機作成、自己PR		
	14	履歴書作成(1)	自分のキャリア確認		
	15	履歴書作成(2)			
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	<p>「こう動く! 就職活動オールガイド' 20年版」成美堂出版、価格1,100円+税金</p> <p>「専門学校生のための就職内定基本テキスト」</p> <p>日本能力協会マネジメントセンター 価格1,200円+税金</p> <p>「ジョブパス能力検定ジョブパス」</p> <p>日本能力協会マネジメントセンター 価格1,300円+税金</p>				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	1SJ2	必須/選択	必須	単位	-
科目	就職実務II				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職についての理解を深め、就職に向けての諸準備を整える。</p> <p>②授業の内容 就職活動前の準備(職業人意識・ビジネス・マナー、ビジネス能力養成)に基づき筆記試験対策、受験アプローチ対策、面接対策を行う。 特に実際の就職試験を想定し、面接訓練、ロールプレイング、グループディスカッションのワークショップを実施する。 多くの企業が採用しているSPIテストの練習に力を入れる。 エントリーシート、履歴書に基づき個別面接指導を実施する。</p> <p>③事前準備学修 特に必要としない</p> <p>④事後展開学修 随時、振り返りの小テストを実施し、履修度合の確認を行う。 期末テストにより全体的な履修度合の確認を行う。</p>				
到達目標	①授業の到達目標は、実際の就職準備(企業研究、業種研究、エントリーシート作成、履歴書作成)を整え、模擬訓練実施の上、企業訪問、入社試験に臨めるようになる。				
授業計画(15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	エントリーシート・履歴書確認	志望動機、受験への覚悟		
	2	個別面談	志望先確認、個別戦略徹底		
	3	筆記試験対策	SPIテスト過去問題集で練習		
	4	筆記試験対策(1)	練習はアクティブラーニング		
	5	筆記試験対策(2)			
	6	筆記試験対策(3)			
	7	筆記試験対策(4)	適正検査対策、公式・文法復習		
	8	筆記試験対策(5)	作文・小論文対策		
	9	筆記試験対策(6)			
	10	筆記試験対策(7)	時事問題、経済用語対策、WEBテスト練習		
	11	筆記試験対策(8)			
	12	面接対策(1)	面接訓練、ロールプレイング		
	13	面接対策(2)			
	14	面接対策(3)			
	15	面接対策(4)	第一印象・マナー対策		
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	<p>「こう動く！就職活動オールガイド'20年版」 成美堂出版 価格1,100円+税金</p> <p>「専門学校生のための就職内定基本テキスト」 日本能率協会マネジメントセンター 価格1,200円+税金</p> <p>「SPI3問題集」 高橋書店 価格1,300円+税金</p> <p>「SPIスピード解法一門一答」 高橋書店 価格1,000円+税金</p>				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	2SJ2	必須/選択	必須	単位	1単位
科目	就職実務II				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職についての理解を深め、就職に向けての諸準備を整える。</p> <p>②授業の内容 就職活動前の準備(職業人意識・ビジネス・マナー、ビジネス能力養成)に基づき筆記試験対策、受験アプローチ対策、面接対策を行う。 特に実際の就職試験を想定し、面接訓練、ロールプレイング、グループディスカッションのワークショップを実施する。 多くの企業が採用しているSPIテストの練習に力を入れる。 エントリーシート、履歴書に基づき個別面接指導を実施する。</p> <p>③事前準備学修 特に必要としない</p> <p>④事後展開学修 随時、振り返りの小テストを実施し、履修度合の確認を行う。 期末テストにより全体的な履修度合の確認を行う。</p>				
到達目標	授業の到達目標は、実際の就職準備(企業研究、業種研究、エントリーシート作成、履歴書作成)を整え、模擬訓練実施の上、企業訪問、入社試験に臨めるようになる。				
授業計画(15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	面接対策(5)	第一印象・マナー対策		
	2	面接対策(6)	質疑応答対策		
	3	面接対策(7)			
	4	面接対策(8)			
	5	面接対策(9)	個別面接対策・訓練		
	6	面接対策(10)			
	7	面接対策(11)			
	8	面接対策(12)	グループディスカッション対策・訓練		
	9	面接対策(13)			
	10	面接対策(14)			
	11	受験アプローチ対策(1)	企業人事部へのアプローチ対策		
	12	受験アプローチ対策(2)	合同企業説明会への参加		
	13	受験アプローチ対策(3)			
	14	受験アプローチ対策(4)			
	15	就職対応確認	個別面談		
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	<p>「こう動く！就職活動オールガイド'20年版」 成美堂出版 価格1,100円＋税金</p> <p>「専門学校生のための就職内定基本テキスト」 日本能率協会マネジメントセンター 価格1,200円＋税金</p> <p>「SPI3問題集」 高橋書店 価格1,300円＋税金</p> <p>「SPIスピード解法一門一答」 高橋書店 価格1,000円＋税金</p>				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	1HRM1	必須/選択	必須	単位	-
科目	ホームルーム				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、演習、面接など				
授業概要	1. 教師と学生とのコミュニケーション、信頼関係の構築 2. クラス及び学年間の団結力の向上 3. 卒業後の進路について考えるきっかけ、習慣の確立				
到達目標	ある時には自身を振り返り、ある時には他者からのアドバイスを受けながら、集団生活に於けるコミュニケーション、信頼関係、自らの人生設計を築くことができる				
授業計画(15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	対面式	1・2年合同実施		
	2	レクレーション	1・2年合同実施		
	3	望ましい学生生活とは?(1)	グループディスカッション		
	4	望ましい学生生活とは?(2)	発表準備		
	5	望ましい学生生活とは?(3)	発表		
	6	図書室の活用法	蔵書の紹介、利用マナーの促し		
	7	映像学習(1)	職業に関するもの(1)		
	8	映像学習(2)	職業に関するもの(2)		
	9	第1回個別面談	学校生活全般についての聞き取り		
	10				
	11	映像学習(3)	交通安全に関するもの(1学年向け)		
	12	映像学習(4)	犯罪防止に関するもの(1学年向け)		
	13	夏休みを迎えるにあたって	1・2年合同実施		
	14	映像学習(5)	健康に関するもの(1学年向け)		
15	前期を振り返って	1・2年合同実施			
テキスト	使用せず。必要に応じてプリント等を配布する。 事前に準備が必要な場合には、校内掲示板や学校HPで告知するので、忘れずに確認すること。				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1. 聴講・参加態度(30%) 2. 各テーマや問題に対する取り組み(50%) 3. 出席(20%) ※例えば映像学習の場合、毎時間視聴レポートを課し、その出来具合を評価する 《その他》 授業に欠席した場合は、その時間数に応じてレポートを提出してもらいます				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	2HRM1	必須/選択	必須	単位	1単位
科目	ホームルーム				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、演習、面接など				
授業概要	1. 教師と学生とのコミュニケーション、信頼関係の構築 2. クラス及び学年間の団結力の向上 3. 卒業後の進路について考えるきっかけ、習慣の確立				
到達目標	ある時には自身を振り返り、ある時には他者からのアドバイスを受けながら、集団生活に於けるコミュニケーション、信頼関係、自らの人生設計を築くことができる				
授業計画(15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	後期に向けて	学生生活への意識・方向づけ		
	2	映像学習(6)	職業に関するもの(3)		
	3	映像学習(7)	職業に関するもの(4)		
	4	映像学習(8)	日本の大学に関するもの		
	5	第2回個別面談	卒業後の進路についての聞き取り		
	6				
	7	映像学習(9)	交通安全に関するもの(2)		
	8	映像学習(10)	犯罪防止に関するもの(2)		
	9	冬休みを迎えるにあたって	1・2年合同実施		
	10	予餞会企画・準備(1)	企画・役割分担を決める		
	11	予餞会企画・準備(2)	予算を決める		
	12	予餞会企画・準備(3)	準備・リハーサル		
	13	予餞会企画・準備(4)			
	14	予餞会	1・2年合同実施		
15	1年間を振り返って	学生へのフィードバック			
テキスト	使用せず。必要に応じてプリント等を配布する。 事前に準備が必要な場合には、校内掲示板や学校HPで告知するので、忘れずに確認すること。				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1. 聴講・参加態度(30%) 2. 各テーマや問題に対する取り組み(50%) 3. 出席(20%) ※例えば映像学習の場合、毎時間視聴レポートを課し、その出来具合を評価する 《その他》 授業に欠席した場合は、その時間数に応じてレポートを提出してもらいます				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	1HRM2	必須/選択	必須	単位	-
科目	ホームルーム				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、演習、面接など				
授業概要	1. 教師と学生とのコミュニケーション、信頼関係の構築 2. クラス及び学年間の団結力の向上 3. 卒業後の進路について考えるきっかけ、習慣の確立				
到達目標	ある時には自身を振り返り、ある時には他者からのアドバイスを受けながら、集団生活に於けるコミュニケーション、信頼関係、自らの人生設計を築くことができる				
授業計画(15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	対面式			
	2	レクレーション			
	3	個別面談	卒業後の進路についての聞き取り		
	4				
	5	卒業研究下調べ	卒業研究関連の調べ学習		
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11	映像学習(1)	交通安全に関するもの(2学年向け)		
	12	映像学習(2)	犯罪防止に関するもの(2学年向け)		
	13	映像学習(3)	健康に関するもの(2学年向け)		
	14	夏休みを迎えるにあたって	夏休みの注意事項		
15	前期を振り返って	学生へのフィードバック			
テキスト	使用せず。必要に応じてプリント等を配布する。 事前に準備が必要な場合には、校内掲示板や学校HPで告知するので、忘れずに確認すること。				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1. 聴講・参加態度(30%) 2. 各テーマや問題に対する取り組み(50%) 3. 出席(20%) ※例えば映像学習の場合、毎時間視聴レポートを課し、その出来具合を評価する 《その他》 授業に欠席した場合は、その時間数に応じてレポートを提出してもらいます				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2024年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード	2HRM2	必須/選択	必須	単位	1単位
科目	ホームルーム				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、演習、面接など				
授業概要	1. 教師と学生とのコミュニケーション、信頼関係の構築 2. クラス及び学年間の団結力の向上 3. 卒業後の進路について考えるきっかけ、習慣の確立				
到達目標	ある時には自身を振り返り、ある時には他者からのアドバイスを受けながら、集団生活に於けるコミュニケーション、信頼関係、自らの人生設計を築くことができる				
授業計画(15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	後期に向けて	学生生活への意識・方向づけ		
	2	卒業研究下調べ	卒業研究関連の調べ学習		
	3				
	4				
	5				
	6	映像学習(3)	交通安全に関するもの(2学年向け)		
	7				
	8				
	9	映像学習(4)	犯罪防止に関するもの(2学年向け)		
	10	冬休みを迎えるにあたって	冬休みの注意事項		
	11	卒業研究下調べ	卒業研究関連の調べ学習		
	12				
	13				
	14	予餞会	1・2年合同実施		
15	二年間の学生生活を振り返って	学生へのフィードバック			
テキスト	使用せず。必要に応じてプリント等を配布する。 事前に準備が必要な場合には、校内掲示板や学校HPで告知するので、忘れずに確認すること。				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1. 聴講・参加態度(30%) 2. 各テーマや問題に対する取り組み(50%) 3. 出席(20%) ※例えば映像学習の場合、毎時間視聴レポートを課し、その出来具合を評価する 《その他》 授業に欠席した場合は、その時間数に応じてレポートを提出してもらいます				